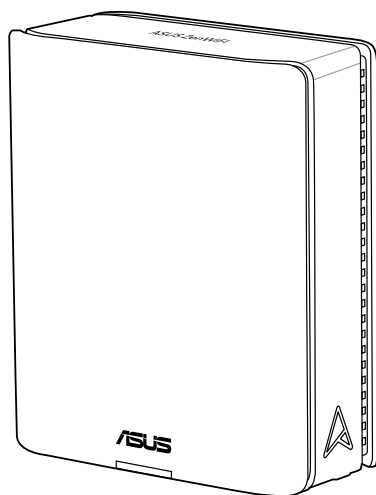


ユーザーマニュアル

RT-BE14000

トライバンド対応 BE14000
無線LANルーター



J25875

改訂版 V2

2025 年 2 月

Copyright © 2025 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。購入者によるバックアップ目的の場合を除き、ASUSTeK Computer Inc.（以下、ASUS）の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

以下に該当する場合は、製品保証サービスを受けることができません。

- (1) 製品に対しASUSの書面により認定された以外の修理、改造、改変が行われた場合
- (2) 製品のシリアル番号の確認ができない場合

本書は情報提供のみを目的としています。本書の情報の完全性および正確性については最善の努力が払われていますが、本書の内容は「現状のまま」で提供されるものであり、ASUSは明示または黙示を問わず、本書においていかなる保証も行ないません。ASUS、その提携会社、従業員、取締役、役員、代理店、ベンダーまたはサプライヤーは、本製品の使用または使用不能から生じた付随的な損害（データの変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に対して、たとえASUSがその損害の可能性について知らされていた場合も、一切責任を負いません。

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。本書では説明の便宜のためにその会社名、製品名などを記載する場合がありますが、それらの商標権の侵害を行なう意思、目的はありません。

もくじ

1 製品の概要

1.1	はじめに.....	6
1.2	パッケージ内容.....	6
1.3	各部の名称.....	7
1.4	無線LANルーターの設置.....	8
1.5	ご使用になる前に.....	9

2 セットアップ

2.1	無線LANルーターのセットアップ.....	11
	A 有線接続.....	12
	B 無線接続.....	13
2.2	クイックインターネットセットアップ (QIS).....	14
2.3	ワイヤレスネットワークに接続する.....	16

3 一般設定と詳細設定の構成

3.1	管理画面にログインする.....	17
	3.1.1 セキュリティのセットアップ.....	19
	3.1.2 ネットワーククライアントの管理.....	21
	3.1.3 USBデバイスの管理.....	22
3.2	アダプティブ QoS.....	25
	3.2.1 QoS (Quality of Service) 帯域の管理.....	25
3.3	管理.....	28
	3.3.1 動作モード.....	28
	3.3.2 システム.....	29
	3.3.3 ファームウェア更新.....	30
	3.3.4 復旧/保存/アップロード設定.....	30
3.4	AiCloud 2.0.....	31
	3.4.1 Cloud Disk.....	32
	3.4.2 Smart Access.....	33
3.5	AiProtection.....	34
	3.5.1 ネットワーク保護.....	34

もくじ

3.5.2	ペアレンタルコントロールの設定	38
3.6	ファイアウォール	41
3.6.1	全般設定	41
3.6.2	URLフィルター	42
3.6.3	キーワードフィルター	43
3.6.4	パケットフィルター	44
3.7	IPv6	46
3.8	LAN	47
3.8.1	LAN IP	47
3.8.2	DHCPサーバー	48
3.8.3	ルーティングテーブル	50
3.8.4	IPTV	51
3.9	ネットワーク	52
3.9.1	MACアドレスフィルタリング	52
3.9.2	ゲストネットワーク	54
3.9.2.1	ゲストネットワークを構築する	54
3.9.2.2	スマートホームマスター	56
3.10	システムログ	60
3.11	トラフィックモニター	61
3.12	USBアプリケーション	62
3.12.1	AiDiskを使用する	63
3.12.2	サーバーセンターを使用する	65
3.12.3	3G/4G	70
3.13	WAN	72
3.13.1	インターネット接続	72
3.13.2	デュアル WAN	75
3.13.3	ポートトリガー	76
3.13.4	ポートフォワーディング	78
3.13.5	DMZ	81
3.13.6	DDNS	82
3.13.7	NATパズスルー	84

もくじ

3.14	ワイヤレス	85
3.14.1	全般設定	85
3.14.2	WPS	86
3.14.3	ブリッジ	89
3.14.4	RADIUSの設定	91
3.14.5	ワイヤレス - 詳細	92

4 ユーティリティ

4.1	Device Discovery	95
4.2	Firmware Restoration (ファームウェアの復元)	96
4.3	プリンターサーバーの設定	98
4.3.1	ネットワークプリンターサーバー	98
4.3.2	LPRを共有プリンターに使用する	102
4.4	Download Master	107
4.4.1	BitTorrent設定	108
4.4.2	NZB設定	109

5 トラブルシューティング

5.1	基本的なトラブルシューティング	110
5.2	FAQ (よくある質問)	113

付録

安全に関する注意事項	133
サービスとサポート	135

1 製品の概要

1.1 はじめに

この度はASUS製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本マニュアルでは、本製品の設置方法、接続方法、各種機能の設定方法について説明をしています。お客様に本製品を末永くご愛用いただくためにも、ご使用前このユーザーマニュアルを必ずお読みください。

1.2 パッケージ内容

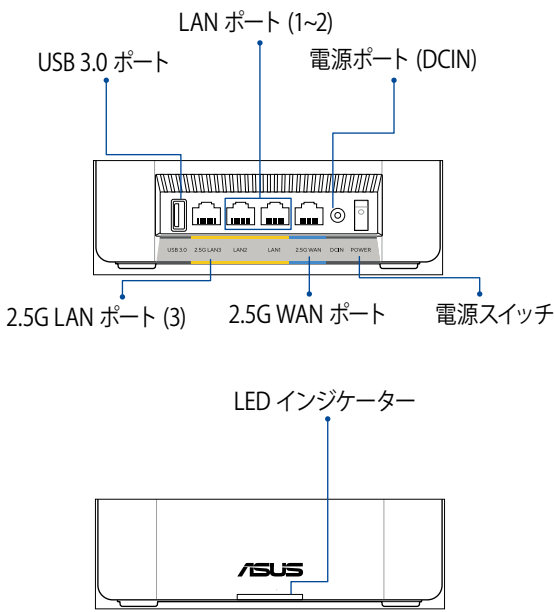
- | | |
|---|---|
| ☒ RT-BE14000 本体 | ☒ LANケーブル |
| ☒ 電源アダプター | ☒ かんたんセットアップガイド |
| ☒ 保証書 | |

注意:

- 万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにご購入元にお申し出ください。
- 販売店舗独自の保証サービスや販売代理店の保証をお受けいただく場合、お買い上げ時の梱包箱、暖衝材、マニュアル、付属品がすべて揃っているなど、条件が設けられていることがあります。ご購入時の領収書やレシートと一緒に大切に保管してください。

注意: 本書で使用されているイラストや画面は実際とは異なる場合があります。各項目の名称、設定値、利用可能な機能は、ご利用のモデルやファームウェアのバージョンにより異なる場合があります。予めご了承ください。

1.3 各部の名称



2.5G WAN ポート

モデム/回線終端装置と接続します。

LAN ポート (1~3)

コンピューターやゲーム機などと接続します。

仕様：

DC電源アダプター	DC出力 +12V、3A		
動作温度	0~40℃	保管時	0~70℃
動作湿度	50~90%	保管時	20~90%

1.4 無線LANルーターの設置

本製品を利用する際は、次のことに注意して設置してください。

- 複数のワイヤレスデバイスを接続する場合は、最適な通信環境のためにすべてのデバイスの中心位置に無線LANルーターを設置します。
- 無線LANルーターの周囲にパソコンや金属物などのものがない場所に設置します。
- 直射日光のあたる場所やストーブ、ヒーターなどの発熱機のそばなど、温度の高い所には設置しないでください。
- 同じ2.4GHz帯を使用する電子レンジ、コードレス電話機、医療機器、Bluetooth機器、レーザー式無線マウスなどの電波を放射する装置から離れた場所に設置します。設置距離が近すぎると、電波が干渉し通信速度が低下したりデータ通信が途切れる場合があります。
- パフォーマンスとセキュリティ向上のため、本機のファームウェアは常に最新のものをご使用ください。
- 無線LANルーター（親機）と無線LAN端末（子機）の距離が近すぎるとデータ通信でエラーが発生する場合があります。お互いを1m以上離してお使いください。

1.5 ご使用になる前に

本製品をご使用になる前に、次のことをご確認ください。

回線契約とインターネットサービスプロバイダー (ISP) の加入

- ・ 本製品をお使いの前に、予め回線の契約とインターネットサービスプロバイダー (ISP) の契約を行い、ブロードバンド回線が開通していることをご確認ください。
- ・ 本製品の設定に必要な情報 (接続ユーザー名、接続パスワードなど) については、ご契約時の書類またはご契約のプロバイダーへお問い合わせください。

設定を行うために必要なコンピューターの要件

- ・ 2.5GBASE-T/ 1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 対応 LANポートまたはIEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax/be 無線LAN機能を搭載するコンピューター
- ・ TCP/IPサービスがインストール済み
- ・ Web ブラウザー
(Internet Explorer、Firefox、Google Chrome、Safari)

注意:

- ・ 本製品はIEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax/be の無線LAN規格に対応した無線LANルーターです。Wi-Fi 接続を使用するには、IEEE 802.11 a/b/g/n/ac/ax/be の無線LAN規格に準拠する機器が必要です。
 - ・ 本製品はトライバンドに対応しており、2.4GHz帯、5GHz帯と6GHz帯、3つの周波数帯域による同時通信をサポートしています。テレビなどで動画のストリーミングを楽しむために電波干渉が少なく高速で安定した5GHz帯を使用し、スマートフォンなどでネットサーフィンを楽しみたい場合は2.4GHz帯を使用するなど、帯域を使い分けて効率的にデータ通信をすることが可能です。
 - ・ IEEE 802.11n 対応製品の中には、5GHz帯に対応していない製品も存在します。ご利用機器の5GHz帯の対応については、製造メーカーへお問い合わせください。
 - ・ イーサネット規格IEEE802.3 により、2.5GBASE-T/ 1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-Tの最大ケーブル長は100m と規定されています。
-

重要!

- 無線アダプターによっては、802.11be / 802.11ax Wi-Fi AP に接続する際に問題が発生することがあります。
 - 問題が発生する場合は、ドライバーを最新バージョンに更新してください。ソフトウェアドライバー、更新、その他の関係情報を取得できる製造元の公式サポートサイトを確認してください。
 - Realtek: <https://www.realtek.com>
 - Mediatek: <https://www.mediatek.com>
 - Intel: <https://www.intel.com/>
-

2 セットアップ

2.1 無線LANルーターのセットアップ

重要!

- セットアップ中の通信エラーなどによる問題を回避するために、有線接続でセットアップを行うことをお勧めします。
 - 無線LANルーターのセットアップを開始する前に、次の操作を行なってください。
 - 既存のルーターと交換を行う場合は、現在実行されているすべての通信を停止します。
 - モデム/回線終端装置とコンピューターに接続されたLANケーブルを取り外します。モデム/回線終端装置がバックアップ用バッテリーを搭載している場合は、バッテリーを一旦取り外します。
 - モデム/回線終端装置とコンピューターを再起動します。(推奨)
-

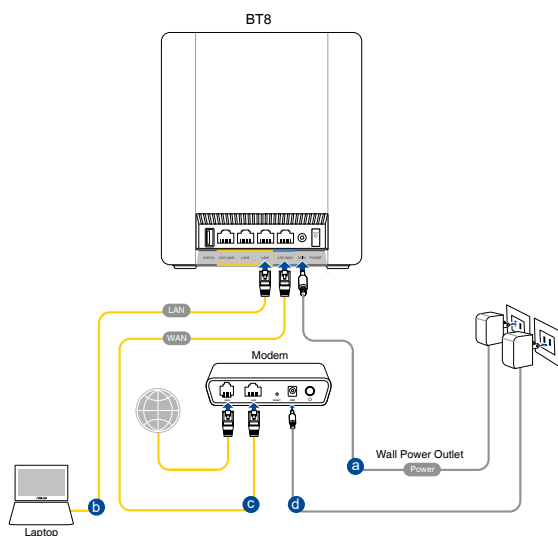


警告!

- 電源コードは、適切なアースが提供されているソケットコンセントに差し込む必要があります。装置は、近くにある簡単にアクセスできるコンセントにのみ接続してください。
 - 電源アダプターが壊れている場合は、自分で修理しないでください。有資格のサービス技術者または販売店にお問い合わせください。
 - 損傷した電源コード、アクセサリ、その他の周辺機器は使用しないでください。
 - 本装置を2メートルより高く設置しないでください。
 - この製品は、周囲温度が0℃ (32°F) ~ 40℃ (104°F) の環境で使用してください。
-

A 有線接続

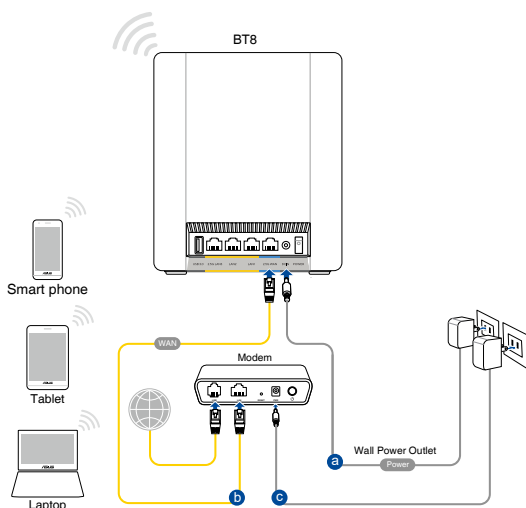
注意: 本製品はオートネゴシエーション機能に対応しています。ネットワークケーブルがストレートケーブルかクロスケーブルかを自動的に判定し接続を行ないます。



接続方法

1. 無線LANルーターに電源ケーブルを接続し、電源を入れます。無線LANルーターのLANポートとコンピューターをLANケーブルで接続します。

B 無線接続



接続方法

1. 無線LANルーターに電源ケーブルを接続し、電源を入れます。
2. 無線LANルーター背面の製品ラベルに記載されているネットワーク名 (SSID) のネットワークに接続します。

Wi-Fi 名 (SSID): ASUS_XX

- * 「XX」は2.4GHz MACアドレスの最後の2桁になります。ルーター背面のラベルに記載があります。
- * Wi-Fi接続にパスワードが必要になる場合がございます。パスワードはルーター背面のラベルに記載があります。
- * ルーターの背面にあるQRコードをスキャンすることで、簡単にWi-Fi接続することができます。

注意:

- ・ ワイヤレスネットワークの接続方法については、ご利用のデバイスのユーザーマニュアルをご覧ください。
- ・ ネットワークのセキュリティ設定については、本マニュアルに記載の「**セキュリティのセットアップ**」をご覧ください。

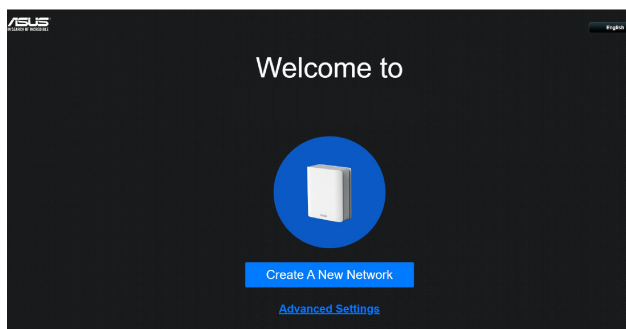
2.2 クイックインターネットセットアップ (QIS)

クイックインターネットセットアップ (QIS) では、簡単な操作でネットワーク環境を構築することができます。

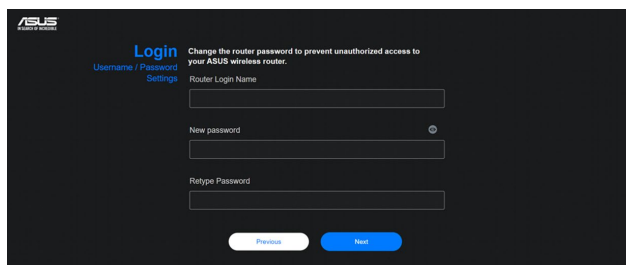
注意: はじめから設定をやり直したい場合は、本体背面のリセットボタンを5秒以上押し、工場出荷時の状態にリセットしてください。

クイックインターネットセットアップを使用する

1. コンピューターと本製品をLANケーブルで接続し、コンピューターを起動します。ウェブブラウザを起動して、アドレス欄に「<http://www.asusrouter.com>」または「<http://192.168.50.1>」を入力してWebのセットアップ画面にアクセスします。



2. ルーターへの不正アクセスを防ぐため、「ログイン設定」画面でルーターのログインパスワードを変更します。



注意: 無線LANルーターのログイン名とパスワード

は、2.4GHz/5GHz/6GHzネットワーク名 (SSID)、セキュリティキーとは異なります。無線LANルーターのログインユーザー名とパスワードは無線LANルーターの管理画面 (WebGUI) にアクセスする際に使用するものです。2.4GHz/5GHz/6GHzネットワーク名 (SSID) とセキュリティキーは、Wi-Fi デバイスで2.4GHz/5GHz/6GHzネットワークに接続する際に使用します。

3. ISP (インターネットサービスプロバイダー) の接続に必要な情報を入力します。ISPの接続タイプが**自動IP (動的IP)**、**静的IP (スタティックIP)**、**PPPoE**、**L2TP**、**PPTP**である場合、無線LANルーターは自動的に接続タイプを検出します。

重要! インターネットの接続タイプや接続ユーザー名、接続パスワードなどについては、ご契約のプロバイダーへお問い合わせください。

注意:

- 無線LANルーターをはじめてご利用になる、または設定を工場出荷時の状態にリセットした場合は、起動時にISP接続タイプの自動検出が実行されます。
- 接続タイプの自動検出に失敗した場合は、「**手動設定**」をクリックして手動設定を行ってください。

4. 2.4GHz帯、5GHz帯と6GHz帯それぞれのワイヤレス接続用にネットワーク名 (SSID) とセキュリティキーを設定し、「**適用**」をクリックして設定を保存します。

2.3 ワイヤレスネットワークに接続する

セットアップの完了後は、コンピューターやゲーム機、スマートフォンなどの無線LANデバイスをワイヤレスネットワークに接続することが可能になります。本製品では、次の方法で接続することができます。

コンピューターでワイヤレスネットワークに接続する

1. 通知領域 (タスクトレイ) に表示されているワイヤレスネットワークアイコン  をクリックします。
2. クイックインターネットセットアップで設定したネットワーク名 (SSID) を選択し、「**接続**」をクリックします。
3. ネットワークキー (暗号化キー) を設定している場合は、キーを入力し「**OK**」をクリックします。
4. コンピューターがワイヤレスネットワークを構築するまでしばらく時間がかかります。コンピューターが正常にワイヤレスネットワークに接続されると、ワイヤレスネットワークアイコン  が変わり通信可能な状態になります。

注意:

- ワイヤレスネットワークの詳細設定については、以降のページをご覧ください。
 - ゲーム機やモバイル端末などのワイヤレスネットワークへの接続方法については、各デバイスの取扱説明書をご覧ください。
 - お使いのOSのバージョンによって設定の方法が異なる場合がございます。予めご了承ください。
-

3 一般設定と詳細設定の構成

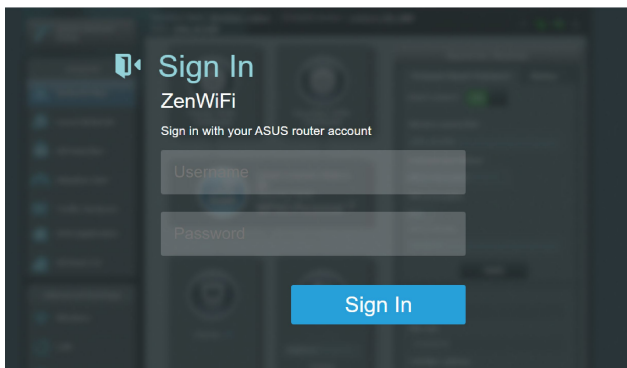
3.1 管理画面にログインする

Google Chrome、Internet Explorer、Firefox、Safariなどのウェブブラウザからグラフィカルなインターフェースを通じて、各種機能を設定することができます。

注意: ファームウェアのバージョンによって、利用できる機能や表示される画面、操作するボタンの名称が異なる場合があります。予めご了承ください。

管理画面にログインする:

1. Webブラウザのアドレス欄に「<http://www.asusrouter.com>」と入力します。
2. ユーザー名とパスワードを入力し、管理画面にログインします。



3. ログインに成功すると管理画面が表示されます。

クイック
インターネット
セットアップ

ナビゲーション
パネル

コマンドボタン

情報バー



* 画像はイメージです。

注意: 本機をはじめて使用する場合、Webブラウザを起動すると自動的にクイックインターネットセットアップが開始されます。

3.1.1 セキュリティのセットアップ

ワイヤレスネットワークを不正なアクセスから保護するには、セキュリティの設定を行なってください。

ワイヤレスネットワークのセキュリティを設定する：

1. 「ネットワーク」をクリックします。
2. 「メインネットワーク」でシステムの状態を表示します。

セキュリティ設定

The screenshot shows the 'Main Network' configuration page with the 'Network' tab selected. Under the 'General' section, 'WiFi Mode' is enabled. The 'Network Name (SSID)' is 'ZenWiFi'. Under 'WiFi Band', 2.4GHz, 5GHz, and 6GHz are all selected. In the 'Security' section, the 'Password' tab is active, showing 'WPA2/WPA3-Personal' as the 'Authentication Method' and a masked password in the 'Wireless Security' field. Other options like 'Open' and 'RADIUS Setting' are visible but not selected. At the bottom, there is an 'Apply' button.

3. 「**ワイヤレス名 (SSID)**」に、他のワイヤレスネットワークと重複しないネットワーク名を入力します。
4. 「**WEP 認証方式**」ドロップダウンリストから利用する暗号方式を選択します。

重要! IEEE 802.11n/ac/ax 規格では、ユニキャスト暗号として WEP または TKIP で高スループットを使用することを禁じています。このような暗号化メソッド (WEP、WPA-TKIP) を使用している場合、データ転送レートは 54Mbps 以下に低下します。

5. セキュリティキー (WPA-PSK キー) を入力します。
6. 「**適用**」をクリックして設定を保存します。

3.1.2 ネットワーククライアントの管理



ネットワーククライアントの状態を確認する：

1. 「ネットワークマップ」をクリックします。
2. 「リストを見る」をクリックすることで現在無線LANルーターに接続されているクライアントの状態を確認することができます。
3. クライアントのネットワークへのアクセスをブロックするには、対象のクライアントをクリックし、「ブロック」をクリックします。

3.1.3 USBデバイスの管理

本製品に搭載されているUSBポートでは、USB デバイスを接続することで本製品に接続した複数のコンピューターとファイルやプリンターを共有することができます。



* 画像はイメージです。

注意: この機能を使用するには、外付けHDDやUSBメモリー等のUSBストレージデバイスを無線LAN/ルーターのUSBポートに接続する必要があります。本製品がサポートするUSBストレージデバイスのフォーマットタイプや容量については、次のWeb サイトでご確認ください。
<http://event.asus.com/networks/disksupport>

重要! 本機能を使用するには、ネットワーククライアントがFTPサイト/サードパーティのFTPクライアントユーティリティ、Servers Center、Samba、AiCloud経由でUSBデバイスにアクセスできるよう、共有アカウントとアクセス権を作成する必要があります。詳しくは「3.12 USBアプリケーション」と「3.4 AiCloud 2.0」をご覧ください。

USBデバイスの状態を確認する：

1. 「ネットワークマップ」をクリックします。
2. USBデバイスのアイコンをクリックすることで無線LAN/ルーターに接続されたUSBデバイスの状態を確認することができます。
3. 「USBアプリケーション」の「AiDisk」から、USBストレージデバイス共有機能の設定を行なうことができます。

注意：

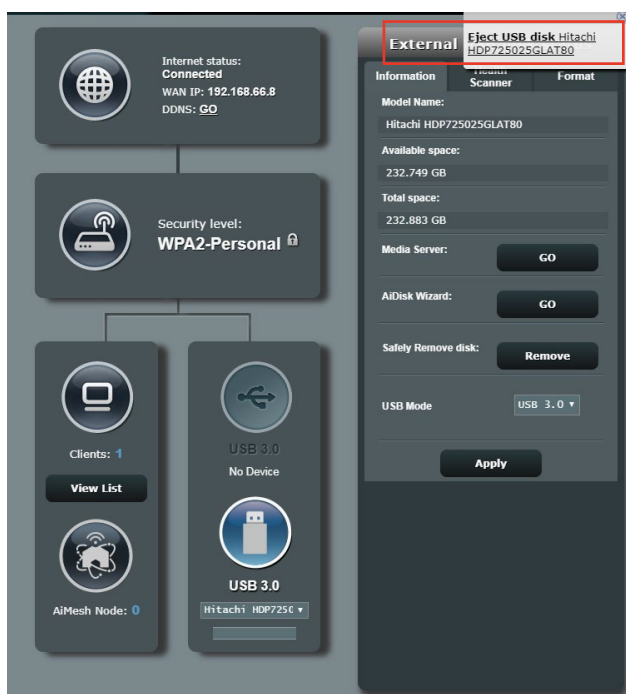
- 詳しくは「3.12.2 サーバーセンターを使用する」をご参考ください。
 - 本製品は、最大4TBまでの容量のUSBストレージデバイスに対応しています。
(対応フォーマット: FAT16、FAT32、NTFS、HFS+)
本製品がサポートするUSB ストレージデバイスのフォーマットタイプや容量については、次のWeb サイトでご確認ください。
<http://event.asus.com/networks/disksupport>
-

USBディスクを安全に取り外す

重要! USBストレージデバイスを取り外す際は、必ず安全な取り外しを行ってから取り外してください。適切な取り外し操作を行わずにデバイスを切断すると、デバイス上のデータが破損する可能性があります。

手順

1. 「ネットワークマップ」画面で取り外したいUSB デバイスをクリックします。
2. 次に「ディスクを安全に取り外します」の「取り外す」をクリックし、デバイスを停止させてからUSB ストレージを取り外します。または、情報バナーの  をクリックし、対象のUSBデバイスを選択します。

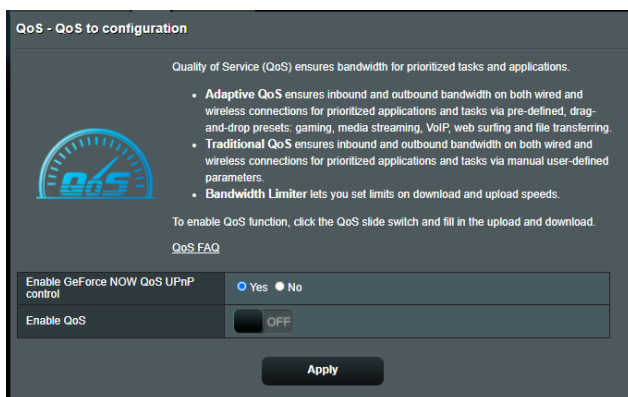


* 画像はイメージです。

3.2 アダプティブ QoS

3.2.1 QoS (Quality of Service) 帯域の管理

Quality of Service (QoS) 機能では、ネットワークを利用する多様なアプリケーションに対して、それぞれに適した帯域幅の指定や優先度の制御を行うことにより、ネットワークをより効率的に活用することができます。



アダプティブ QoS機能を有効にする

1. 「アダプティブ QoS」を選択し、画面上部の「QoS」タブをクリックします。
2. 「QoS機能を有効にする」のスイッチをクリックしONにします。
3. QoS タイプ (アダプティブ / トラディショナル / 帯域リミッター) を選択します。

注意: QoS タイプの定義については、QoS タブを参照してください。

4. 「自動設定」をクリックして、自動的に最適な帯域幅にします。または、「手動設定」をクリックして、アップロード帯域幅とダウンロード帯域幅を手動で設定します。

注意: 帯域幅に関する情報はご契約のプロバイダーにご確認ください。次のWeb サイトで実測値を測定することができます。
(<http://speedtest.net>)

5. 「適用」をクリックします。

帯域の優先順位を設定する

1. Web GUI ナビゲーションパネル全般の「**アダプティブQoS**」を起動し、「**QoS**」タブをクリックします。
2. スイッチをクリックして、QoS機能を「**ON**」にします。アップロードおよびダウンロードの帯域幅を入力します。

注意: 帯域幅に関する情報はご契約のプロバイダーにご確認ください。

3. 「**保存**」をクリックし、設定を保存します。

注意: 「**ユーザー指定ルールリスト**」は上級者向けの設定です。特定のアプリケーションやデバイスでの制限を設定したい場合は、「**ユーザー定義の優先順位**」、「**ユーザー定義のQoSルール**」で設定することが可能です。

4. 「**ユーザー指定ルールリスト**」の画面には次のデフォルトオンラインサービスのタイプが表示されます。

Web Surf, HTTPS, File Transfers

ユーザー定義のQoSルールを追加するには、画面右上のドロップダウンリストから「**ユーザー定義のQoSルール**」をクリックし、サービス名、IP/MACアドレス、宛先ポート、プロトコル、Transferred、優先度を設定後「**Add**」ボタンをクリックして項目を追加し「**適用**」をクリックします。

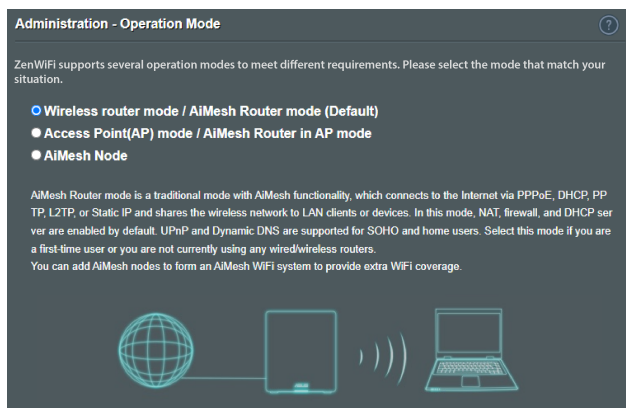
注意:

- Source IP/MAC アドレスは次の形式で入力します。
 - a) 特定のIPアドレスを入力する。 例: 192.168.122.1
 - b) サブネットマスク、または同じIPプールのアドレスを入力する。
例: 192.168.123.* または 192.168.*.*
 - c) すべてのアドレスをアスタリスクで入力するか、または空欄状態にする。 例: *.*.*
 - d) MACアドレス (12桁の16進数) を2桁ずつコロン (:) で区切り入力する。 例: 12:34:56:aa:bc:ef
 - 宛先ポートは次の形式で入力します。
 - a) 特定のポートを入力する。 例: 95
 - b) ポート範囲を指定して入力する。
例: 103:315、>100、<65535
 - 「**Transferred**」にはセクションごとのアップストリーム/ダウンストリームのトラフィック情報が含まれています。この項目では、特定のポートに割り当てられているサービスのための特定の優先順位を生成するために、ネットワークトラフィックの制限をKB単位で特定のサービスに設定することができます。
例: 2つのネットワーククライアント (PC1とPC2) がポート80でインターネットにアクセスしている際、PC1がダウンロードタスクによってネットワークトラフィックの制限を超えた場合、PC1のネットワークのネットワークトラフィックの優先度は低くなります。トラフィックの制限を設定しない場合、この項目は空欄にします。
-

3.3 管理

3.3.1 動作モード

動作モードでは、本製品の動作モードを簡単に切り替えることができます。



動作モードのセットアップ

1. 「管理」をクリックし、「動作モード」タブを選択します。
2. 動作モードを選択します。
 - **無線ルーターモード / AiMeshルーターモード(デフォルト):** 無線ルーターモードでは、無線ルーターを介してインターネットに接続し、ローカルネットワーク内のデバイスにインターネット接続を提供します。
 - **アクセスポイントモード / AiMesh アクセスポイントモード:** アクセスポイントモードでは、既存のネットワークに新たなワイヤレスネットワークを作成します。
 - **AiMeshノード:** AiMeshを設定するには、2台以上のAiMesh対応ASUS無線ルーターが必要です。AiMeshノードを有効化し、親機のAiMeshルーターにログイン、管理画面からAiMeshノードを検索すれば近くの利用可能なAiMeshノードを自動的に発見し、AiMeshシステムに組み込みます。AiMeshは家全体にWi-Fiカバレッジとネットワークの中央管理を提供します。

3. 「**保存**」をクリックし、設定を保存します。

注意: 動作モードを変更するには、無線LANルーターの再起動が必要です。

3.3.2 システム

システムでは、無線LANルーターのログイン名やパスワード、タイムゾーンなどのシステムに関連する設定を行うことができます。

手順

1. 「**管理**」をクリックし、「**システム**」タブを選択します。
2. ご利用の環境に応じて以下の設定を行います。
 - ・ **ログイン名/パスワードの変更:** 本製品の管理画面にアクセスする際に使用する、管理者名 (ユーザー名) とパスワードを変更することができます。
 - ・ **WPSボタンの動作:** WPSボタンの有効/無効を設定します。
 - ・ **タイムゾーン:** 本製品内蔵時計のタイムゾーンを選択します。
 - ・ **NTPサーバー:** 本製品の時間を同期するためのNTP (Network Time Protocol) サーバーを設定することができます。
 - ・ **Telnet:** ネットワークに接続されたデバイスから遠隔操作をするためのTelnet通信の有効/無効を設定します。
 - ・ **認証方式:** 本製品の管理画面へアクセスする際に使用する認証プロトコルを選択します。
 - ・ **WANからの接続を許可:** 外部ネットワーク上のクライアントによる管理画面アクセスの有効/無効を設定します。
 - ・ **指定したIPアドレスからの接続を許可:** 外部ネットワーク上の特定のクライアントによる管理画面アクセスの有効/無効を設定します。アクセスを許可するクライアントはクライアントリストで指定することができます。
 - ・ **指定したIPアドレス:** 管理画面アクセスを許可する外部ネットワーク上のクライアントIPアドレスで指定します。
3. 「**適用**」をクリックし、設定を保存します。

3.3.3 ファームウェア更新

注意: 最新のファームウェアはASUSのオフィシャルサイトからダウンロードいただけます。(https://www.asus.com/jp/)

ファイルからファームウェアを更新:

1. 「**管理**」をクリックし、「**ファームウェア更新**」タブを選択します。
2. 「**ファームウェア手動更新**」の「**アップロード**」ボタンをクリックし、コンピューターに保存したファームウェアファイルを指定します。
3. 「**開く**」をクリックし、ファームウェアの更新を開始します。ファームウェアの更新には約3分ほどかかります。

注意:

- ファームウェアの更新後は、無線LANルーターの再起動が必要です。
- ファームウェアの更新に失敗した場合、無線LANルーターは自動的にレスキューモードに移行し、電源LEDがゆっくりと点滅します。復旧方法については、「**4.2 Firmware Restoration (ファームウェアの復元)**」をご覧ください。

3.3.4 復旧/保存/アップロード設定

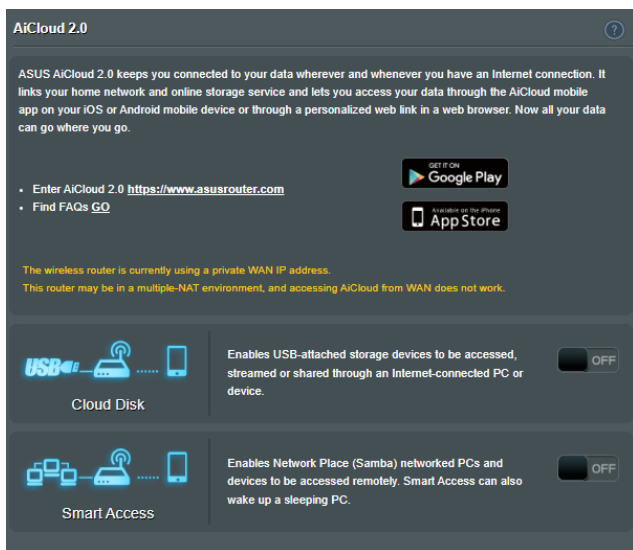
無線LANルーターの設定の保存とアップロード

1. 「**管理**」をクリックし、「**復元/保存/アップロード設定**」タブを選択します。
2. 実行するタスクを選択します。
 - 工場出荷時の状態にリセット
無線LANルーターのシステムを工場出荷時の状態に戻します。
 - 設定をファイルに保存
現在の無線LANルーターの設定をファイルとして保存します。
 - 設定をファイルから復元
「**設定をファイルに保存**」で作成したファイルから、システム設定を復元します。「**アップロード**」ボタンをクリックし、コンピューターに保存した設定ファイルを指定します。

重要! 設定の復元機能の使用によって問題が発生した場合は、お手数ですがファームウェアを最新バージョンに更新し再度手動にて設定を実施してください。

3.4 AiCloud 2.0

AiCloud 2.0 はホームネットワークとクラウドを結び、iOSやAndroidのアプリ、またはWeb ブラウザーで外出先から自宅のデータにアクセスすることができます。



AiCloud 2.0を使用する

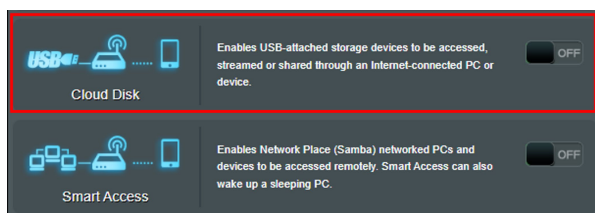
1. AndroidやiOSを搭載したスマートデバイスで、Google PlayまたはApp Storeから「**ASUS AiCloud 2.0**」アプリをダウンロードしてインストールします。
2. ASUS AiCloud 2.0アプリをインストールしたスマートデバイスを本機のワイヤレスネットワークに接続します。次にASUS AiCloud 2.0アプリを起動し、画面の指示に従ってセットアップを行います。

3.4.1 Cloud Disk

Cloud Disk は専用アプリ、またはWebブラウザでルーターのUSBポートに接続したUSBストレージデバイスにアクセスすることができる機能です。

Cloud Diskを作成する

1. 本機のUSBポートにUSBストレージデバイスを接続します。
2. 「**AiCloud 2.0**」を選択し、「**Cloud Disk**」のスイッチをクリックしONにします。



3. Web ブラウザーのアドレス欄に「**<http://www.asusrouter.com>**」と入力してASUS AiCloudのログイン画面に移動し、ルーターのユーザー名とパスワードを入力してログインします。快適にご利用いただくために、Google Chrome または Firefox ブラウザーをご使用頂くことをおすすめいたします。
4. 本機のUSBポートに接続したUSBストレージデバイスにアクセスすることができます。

注意: セキュリティ対策上、AiCloudではログイン情報を保存することはできません。

注意: 本書で使用されているイラストや画面は実際とは異なる場合があります。

3.4.2 Smart Access

Smart Access は、利用環境に関わらずインターネット経由でLAN上のPCにアクセスすることができる機能です。WoL (Wake-on-LAN) に対応しているので、リモート操作でPCの電源を操作することが可能です。



注意:

- 本製品は、ASUS DDNS Serviceを利用してドメイン名を作成することができます。詳しくは「**3.13.6 DDNS**」をご覧ください。
- AiCloud 2.0はセキュアな接続 (HTTPS) を利用することが可能です。次のURLでCloud DiskやSmart Accessを安全に使用することができます。

W

3.5 AiProtection

AiProtectionはトレンドマイクロ社の技術を採用したセキュリティ機能です。パソコン、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機など家庭内のデバイスにセキュリティソフトをインストールすることなく、危険なサイトやマルウェアなどのセキュリティ上の脅威からネットワーク環境を守ります。

3.5.1 ネットワーク保護

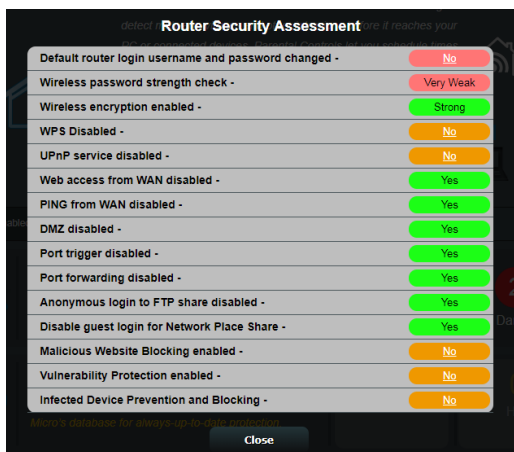
ネットワーク保護では、悪質なWebサイトへのアクセス、脆弱性を狙った攻撃、不正な通信のブロックなどの設定を有効にできます。



ネットワーク保護の設定

手順

1. 「**AiProtection**」をクリックします。
2. 「**ネットワークの保護**」をクリックします。
3. 「**ルーターのセキュリティスキャン**」の「**スキャン**」をクリックします。



重要! セキュリティスキャンの結果に表示される緑色の項目は安全な状態です。赤色の項目は対策を講じる必要のある項目です。

4. セキュリティスキャンの結果画面で赤色の対策を講じる必要のある項目をクリックすると、該当項目の設定画面にジャンプすることができます。
5. ネットワーク保護機能をすべて有効にするには、「**ルーターの保護**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックして設定を適用します。

悪質サイトのブロック

トレンドマイクロ社のデータベースを使用して、既知の悪質なウェブサイトやフィッシングサイトへのアクセスを制限します。

注意: セキュリティスキャンの結果画面で「**ルーターの保護**」を実行した場合、「**悪質サイトのブロック**」は自動的にONになります。

悪質サイトのブロックを有効にする

1. 「**AiProtection**」をクリックします。
2. 「**悪質サイトのブロック**」のスイッチをクリックしONにします。

脆弱性保護

脆弱性保護は、2Way IPS(Intrusion Prevention System:侵入防止システム)によって、疑わしい通信や脆弱性を悪用する攻撃があった場合は通信を遮断します。また外部への不正通信を検知し、ネットワーク攻撃から保護します。

注意: セキュリティスキャンの結果画面で「**ルーターの保護**」を実行した場合、「**脆弱性保護**」は自動的にONになります。

脆弱性保護を有効にする

1. 「**AiProtection**」をクリックします。
2. 「**脆弱性保護**」のスイッチをクリックしONにします。

感染デバイス検出/ブロック

ウイルスなどのマルウェアに感染してしまったデバイスが存在する場合に、不正な通信を検出すると、その通信を遮断します。

注意: セキュリティスキャンの結果画面で「**ルーターの保護**」を実行した場合、「**感染デバイス検出/ブロック**」は自動的にONになります。

感染デバイス検出/ブロックを有効にする

1. 「**AiProtection**」をクリックします。
2. 「**感染デバイス検出/ブロック**」のスイッチをクリックしONにします。

アラートを設定する

不正な通信が検出され通信の遮断が発生した場合に登録したメールアドレスに通知メールを送信することができます。

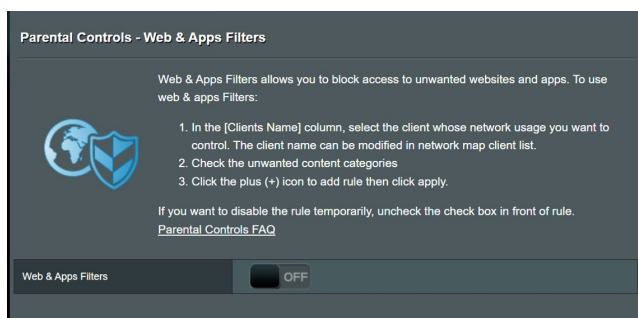
1. 「**感染デバイス検出/ブロック**」の「**アラート設定**」をクリックします。
2. メールサービス、メールアドレス、パスワードを入力し「**適用**」をクリックします。

3.5.2 ペアレンタルコントロールの設定

ペアレンタルコントロール機能では、1日あたりの利用時間を制限したり、有害なウェブサイトの表示をブロックするなど、子供の成長に合わせて制限設定をすることができます。

ペアレンタルコントロールのメインページに移動する

1. 「**AiProtection**」をクリックします。
2. 「ペアレンタルコントロール」をクリックします。



Web&アプリケーションフィルター

有害なウェブサイトの表示をブロックしたり、不要なアプリケーションへのアクセスをクライアントごとに制限することができます。

Web&アプリケーションフィルターを設定する

1. 「ペアレンタルコントロール」画面右上の「**Web&アプリケーションフィルター**」をクリックします。
2. 「**Web&アプリケーションフィルター**」のスイッチをクリックしONにします。
3. 「**クライアント名 (MACアドレス)**」ドロップダウンリストから、制限を設定するクライアントを選択します。
4. フィルターを実行するカテゴリーをクリックしてチェックします。
(成人向け、インスタントメッセージャー/コミュニケーションツール、P2P/ファイル転送サービス、ストリーミング/エンターテインメント)

5.  をクリックしクライアントのプロファイルを追加します。
6. 設定を保存するには、「適用」をクリックします。

注意:

- ・ 本機能はすべての通信を制御するものではありません。
- ・ インスタントメッセージなどの暗号化された通信は制御することができない場合があります。予めご了承ください。

Parental Controls - Web & Apps Filters

Web & Apps Filters allows you to block access to unwanted websites and apps. To use web & apps Filters:

1. In the [Clients Name] column, select the client whose network usage you want to control. The client name can be modified in network map client list.
2. Check the unwanted content categories
3. Click the plus (+) icon to add rule then click apply.

If you want to disable the rule temporarily, uncheck the check box in front of rule.
[Parental Controls FAQ](#)

Web & Apps Filters ☒ ON

Client List (Max Limit : 64)

☐	Client Name (MAC Address)	Content Category	Add / Delete
☒	Client Name (MAC Address)	☒ Adult Block adult/mature content to prevent children from visiting sites that contain material of a sexual, violent, and illegal nature. ☒ Instant Message and Communication Block instant communication software and messaging apps to prevent children from becoming addicted to social networking sites. ☒ P2P and File Transfer By blocking P2P and File Transferring you can make sure your network has a better quality of data transmission. ☒ Streaming and Entertainment By blocking streaming and entertainment services you can limit the time your children spend online.	

No data in table.

Apply

時間設定

クライアントごとにインターネットを使用することができる時間を制限することができます。

注意: 時間設定機能を使用するには、本機のタイムゾーンとNTPサーバーが正しく設定されている必要があります。

Parental Controls - Time Scheduling

By enabling Block All Devices, all of the connected devices will be blocked from Internet access.

Enable block all devices ☐ OFF

This feature allows you to set up a scheduled time for specific devices' Internet access.

1. In [Client Name] column, select a device you would like to manage. You can also manually key in MAC address in this column.
2. In the [Add / Delete] column, click the plus(+) icon to add the client.
3. In [Time Management] column, click the edit icon to set a schedule.
4. Click [Apply] to save the configurations.

Enable Time Scheduling ☒ ON

System Time Thu, Sep 21 12:34:41 2023

Client List (Max Limit: 64)

Select	Client Name (MAC Address)	Time Management	Add / Delete
all			
Time			

No data in table

Apply

手順

1. 「ペアレンタルコントロール」画面右上の「時間設定」をクリックします。
2. 「タイムスケジュール」のスイッチをクリックしONにします。
3. 「クライアント名」ドロップダウンリストから、制限を設定するクライアントを選択します。

注意: 「クライアント名」と「クライアントのMACアドレス」を手動で入力することでも設定することができます。クライアント名は半角英数字文字のみで入力してください。記号、スペース、特殊文字を使用した場合、正常に機能しない場合があります。

4. をクリックし、クライアントのプロファイルを追加します。
5. 設定を保存するには、「適用」をクリックします。

3.6 ファイアウォール

本製品はハードウェアファイアウォールをサポートし、より安全な接続を提供します。

注意: ファイアウォール機能はデフォルト設定で有効に設定されています。

3.6.1 全般設定

Firewall

General

Enable the firewall to protect your local area network against attacks from hackers. The firewall filters the incoming and outgoing packets based on the filter rules.
[DoS Protection FAQ](#)

Enable Firewall

☒ Yes ☐ No

Enable DoS protection

☒ Yes ☐ No

Logged packets type

NONE

Respond ICMP Echo (ping) Request from WAN

☐ Yes ☒ No

Basic Config

Enable IPv4 inbound firewall rules

☐ Yes ☒ No

Inbound Firewall Rules (Max Limit : 128)

Source IP	Port Range	Protocol	Add / Delete
		TCP v	+
No data in table.			

IPv6 Firewall

All outbound traffic coming from IPv6 hosts on your LAN is allowed, as well as related inbound traffic. Any other inbound traffic must be specifically allowed here.
You can leave the remote IP blank to allow traffic from any remote host. A subnet can also be specified.
(2001::1111:2222:3333/64 for example)

Basic Config

Enable IPv6 Firewall

☒ Yes ☐ No

Famous Server List

Please select

Inbound Firewall Rules (Max Limit : 128)

Service Name	Remote IP/CIDR	Local IP	Port Range	Protocol	Add / Delete
				TCP v	+
No data in table.					

Apply

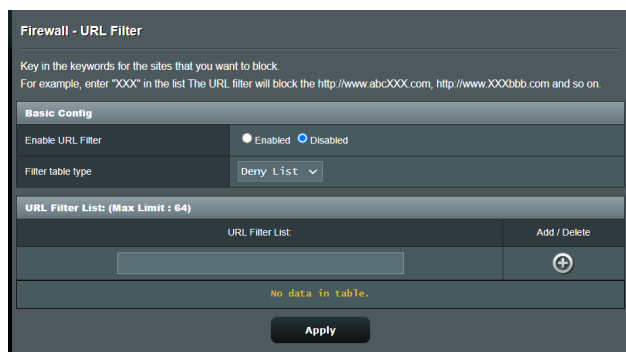
基本的なファイアウォールのセットアップ

1. 「ファイアウォール」をクリックし、「全般」タブを選択します。
2. 「ファイアウォールを有効にする」の「はい」をチェックします。
3. 「DoS保護を有効にする」でDoS (Denial of Service) 攻撃からネットワークを保護する機能の有効/無効を設定します。通常使用される場合は、この項目を「はい」にチェックすることをお勧めします。
4. LAN接続とWAN接続間のパケットを監視してログを取得する場合は、パケットタイプを選択します。
5. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.6.2 URLフィルター

URLフィルターでは、任意のURLを設定し、一致したWebサイトへのアクセスを制限することができます。

注意: URLフィルター機能はDNSクエリに基づいて行われます。システムストアの閲覧履歴はDNSキャッシュに格納されており、ネットワーククライアントが閲覧した履歴のあるWeb サイトはブロックすることができません。この問題を解決するには、URLフィルター機能を設定する前にDNSキャッシュをクリアする必要があります。

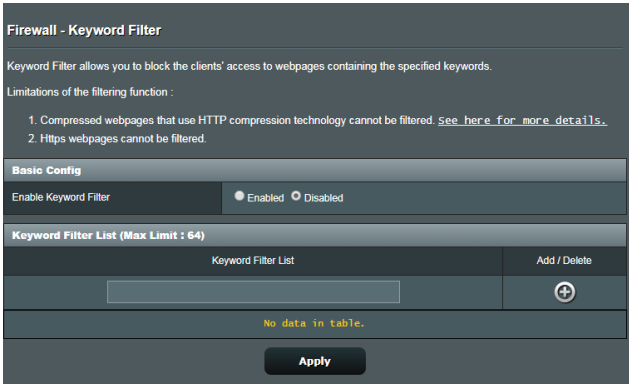


URLフィルターのセットアップ

1. 「ファイアウォール」をクリックし、「URLフィルター」タブを選択します。
2. 「URL フィルターを有効にする」の「有効」をチェックします。
3. アクセス制限を行いたいWebサイトのURLを入力し、 ボタンをクリックします。
4. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.6.3 キーワードフィルター

キーワードフィルターでは、任意のキーワードを設定し、一致した文字列を含むWebサイトへのアクセスを制限することができます。



Firewall - Keyword Filter

Keyword Filter allows you to block the clients' access to webpages containing the specified keywords.

Limitations of the filtering function :

1. Compressed webpages that use HTTP compression technology cannot be filtered. [See here for more details.](#)
2. Https webpages cannot be filtered.

Basic Config

Enable Keyword Filter ☒ Enabled ☐ Disabled

Keyword Filter List (Max Limit : 64)

Keyword Filter List	Add / Delete
	
No data in table.	

Apply

キーワードフィルターのセットアップ

1. 「ファイアウォール」をクリックし、「キーワードフィルター」タブを選択します。
2. 「キーワードフィルターを有効にする」の「有効」をチェックします。
3. 単語またはフレーズを入力し、 ボタンをクリックします。
4. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

注意:

- キーワードフィルター機能はDNSクエリに基づいておこなわれます。システムストアの閲覧履歴はDNSキャッシュに格納されており、ネットワーククライアントが閲覧した履歴のあるWeb サイトはブロックすることができません。この問題を解決するには、キーワードフィルター機能を設定する前にDNSキャッシュをクリアする必要があります。
 - HTTP圧縮を使用しているWebページをフィルタリングすることはできません。また、HTTPSセキュア接続のWebページはキーワードフィルター機能でフィルタリングすることができません。
-

3.6.4 パケットフィルター

パケットフィルターでは、LAN側からWAN側へのパケット交換、およびTelnetやFTPといった特定のWebサービスに対してのアクセスを制限することができます。

Firewall - Network Services Filter

The Network Services filter blocks the LAN to WAN packet exchanges and restricts devices from using specific network services. For example, if you do not want the device to use the Internet service, key in 80 in the destination port. The traffic that uses port 80 will be blocked (but https can not be blocked). Leave the source IP field blank to apply this rule to all LAN devices.

Deny List Duration : During the scheduled duration, clients in the Deny List cannot use the specified network services. After the specified duration, all the clients in LAN can access the specified network services.

Allow List Duration : During the scheduled duration, clients in the Allow List can ONLY use the specified network

NOTE : If you set the subnet for the Allow List, IP addresses outside the subnet will not be able to access the Internet or any Internet service.

Network Services Filter

Enable Network Services Filter ☒ Yes ☐ No

Filter table type Deny List ▾

Well-Known Applications user Defined ▾

Date to Enable LAN to WAN Filter ☑ Mon ☑ Tue ☑ Wed ☑ Thu ☑ Fri

Time of Day to Enable LAN to WAN Filter 00 : 00 - 23 : 59

Date to Enable LAN to WAN Filter ☑ Sat ☑ Sun

Time of Day to Enable LAN to WAN Filter 00 : 00 - 23 : 59

Filtered ICMP packet types

Network Services Filter Table (Max Limit : 32)

Source IP	Port Range	Destination IP	Port Range	Protocol	Add / Delete
				TCP ▾	⊕
No data in table.					

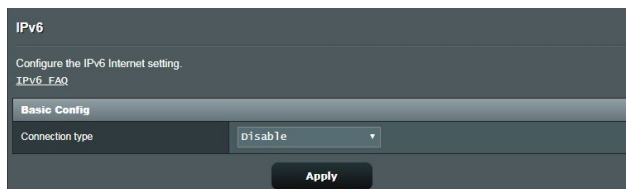
Apply

パケットフィルターのセットアップ

1. 「ファイアウォール」をクリックし、「パケットフィルター」タブを選択します。
2. 「パケットフィルターを有効にする」の「はい」をチェックします。
3. フィルターリストのタイプを選択します。「ブラックリスト」は特定のネットワークサービスをブロックします。「ホワイトリスト」は指定したネットワークサービスのみアクセスを許可します。
4. パケットフィルターを有効にする日時を指定します。
5. フィルタリングを行うネットワークサービスを指定するには、ソースIP、宛先IP、ポートレンジ、プロトコルを入力し、 ボタンをクリックしリストに追加します。
6. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.7 IPv6

本製品はIPv6をサポートしています。IPv6とは、従来のIPv4をベースに開発されたインターネットの新しい通信プロトコルです。



IPv6のセットアップ

1. 「**IPv6**」をクリックします。
2. 「**接続タイプ**」のドロップダウンリストから、ご契約のプロバイダーが提供するサービスに合わせて接続タイプを選択し、基本設定を行います。
3. 必要に応じて、LAN設定とDNS設定を入力します。
4. 「**適用**」をクリックし、設定を保存します。

注意: IPv6サービスの対応と詳しい設定方法については、ご契約のプロバイダーへお問い合わせください。

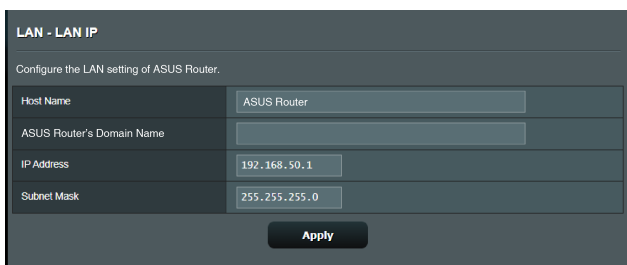
3.8 LAN

3.8.1 LAN IP

LAN IP では、本機に割り当てられているのIPアドレス設定を変更することができます。

注意:

- LAN IP の変更に伴い、DHCPサーバーの設定が変更されます。
- LAN IP を変更した場合、管理画面にログインするには、変更後のIPアドレスを使用する必要があります。



LAN - LAN IP	
Configure the LAN setting of ASUS Router.	
Host Name	ASUS Router
ASUS Router's Domain Name	
IP Address	192.168.50.1
Subnet Mask	255.255.255.0
<button>Apply</button>	

LAN IP設定を変更する

1. 「**LAN**」をクリックし、「**LAN IP**」タブを選択します。
2. 「**IPアドレス**」と「**サブネットマスク**」に新たなアドレスを入力します。
3. 「**適用**」をクリックし、設定を保存します。

3.8.2 DHCPサーバー

本製品は、DHCPサーバー機能 (IPアドレス自動割り当て) をサポートしています。この設定では、DHCPサーバーが自動で割り当てるIPアドレスの範囲やリースタイムなどの詳細設定を行うことができます。

LAN - DHCP Server

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) is a protocol for the automatic configuration used on IP networks. The DHCP server can assign each client an IP address and informs the client of the DNS server IP and default gateway IP. ASUS Router supports up to 253 IP addresses for your local network.
[Manually Assigned IP around the DHCP list FAQ](#)

Basic Config

Enable the DHCP Server

☒ Yes ☐ No

ASUS Router's Domain Name

IP Pool Starting Address

192.168.10.2

IP Pool Ending Address

192.168.10.254

Lease time

66400

Default Gateway

DNS and WINS Server Setting

DNS Server 1

DNS Server 2

Advertise router's IP in addition to user-specified DNS

☒ Yes ☐ No

WINS Server

Manual Assignment

Enable Manual Assignment

☐ Yes ☒ No

Manually Assigned IP around the DHCP list (Max Limit : 64)

Client Name (MAC Address)	IP Address	DNS Server (Optional)	Host Name (Optional)	Add / Delete
No data in table.				

Apply

DHCPサーバー のセットアップ

1. 「LAN」をクリックし、「DHCP サーバー」タブを選択します。
2. 「DHCPサーバーを有効にする」の「はい」をチェックします。
3. 「ドメイン名」にDHCPサーバー機能で割り当てるドメイン名を入力します。プロバイダーからドメイン名が指定されている場合や、独自のドメイン名を使用する場合に入力してください。指定がない場合は、空欄のままで使用します。

4. 「**IP アドレスプール開始IPアドレス**」に起点となるIPアドレスを入力します。
5. 「**IP アドレスプール終了IPアドレス**」に終点となるIPアドレスを入力します。
6. 「**リース時間**」のフィールドに、現在割り当てられているIPアドレスを破棄し、DHCPサーバーによるIPアドレスの再割り当てを要求する時間を入力します。

注意:

- IPプール起点アドレスとIPプール終点アドレスは、次の範囲内で設定されることをお勧めします。
IPアドレス: **192.168.50.xxx** 「xxx」は2～254の任意の数)
- IPプール起点アドレスの値はIPプール終点アドレスより小さい数値である必要があります。

-
7. 設定が必要な場合は、「**DNS と WINS サーバーの設定**」で各サーバーのIPアドレスを入力します。
 8. 本製品では、DHCPサーバー機能を使用しながら特定のMACアドレスに対してIPアドレスを手動で割り当てることもできます。
「**固定割当てを有効にする**」の「**はい**」をチェックし、下のリストでMACアドレスと割り当てるIPアドレスを入力し追加します。固定割当ては最大32個まで登録することができます。

3.8.3 ルーティングテーブル

ネットワーク上に複数の無線LANルーターが存在する場合など、すべての経路で同じインターネットサービスを使用するためにルーティング (経路制御) を設定する必要があります。この項目では、ルーティングテーブルに関する詳細設定を行うことができます。

注意: ルーティングテーブル (経路表) の設定を間違った場合、ネットワークがループする、またはネットワークに繋がらなくなる等の問題が生じる可能性があります。これらの設定を適切に行うには、高度な専門知識が必要です。通常はデフォルト (初期値) のままでご使用になることを推奨いたします。

Network/Host IP	Netmask	Gateway	Metric	Interface	Add / Delete
				LAN	+

No data in table.

Apply

ルーティングテーブルのセットアップ

1. 「LAN」をクリックし、「ルーティングテーブル」タブを選択します。
2. 「静的経路を有効にする」の「はい」をチェックします。
3. 「静的経路リスト」にアクセスポイントまたは中継ノードの情報を入力し、リストに追加します。
4. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.8.4 IPTV

本製品は、IPSまたはLANを介したIPTVサービスをサポートしています。この項目ではIPTV、VoIP、マルチキャスト、UDPに関する詳細設定を行うことができます。IPTVサービスに関する情報や適切な設定方法については、ご利用のサービスプロバイダーにお問い合わせください。

LAN - IPTV

To watch IPTV, the WAN port must be connected to the Internet. Please go to [WAN - Dual WAN](#) to confirm that WAN port is assigned to primary WAN.

LAN Port

Select ISP Profile

None ▾

Choose IPTV STB Port

None ▾

Special Applications

Use DHCP routes

Microsoft ▾

Enable multicast routing (IGMP Proxy)

Disable ▾

UDP Proxy (Udpxy)

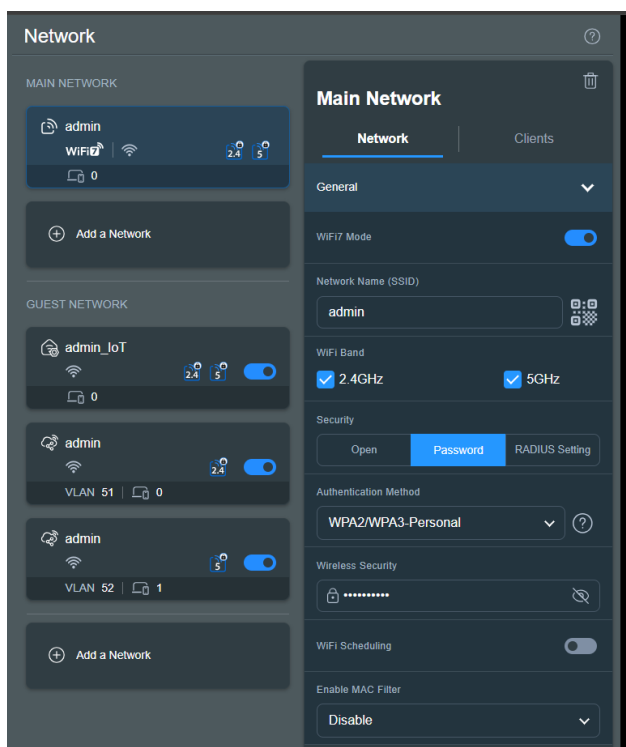
0

Apply

3.9 ネットワーク

3.9.1 MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリングでは、MACアドレスによる接続制限 (MACアドレスフィルタリング) を設定することができます。

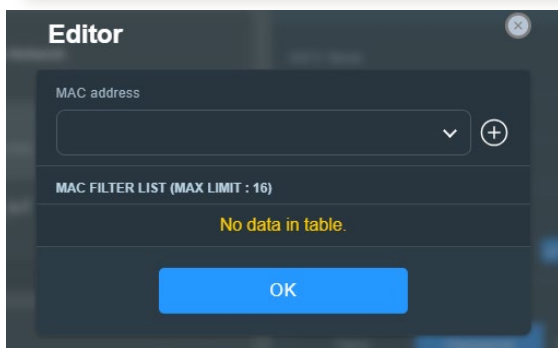
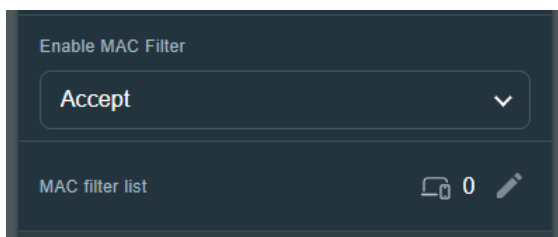


MACアドレスフィルタリングのセットアップ

1. 「ネットワーク」をクリックし、「メインネットワーク」タブを選択します。
2. 「MACアドレスフィルタリング」ドロップダウンリストからフィルター動作を選択します。
 - **許可:** MACフィルターリストに登録されているデバイスのみ接続を許可します。
 - **拒否:** MACフィルターリストに登録されているデバイスの接続を拒否します。

注意: 「MACアドレスフィルタリング」をオフにする場合は、ドロップダウンリストから無効を選択します。

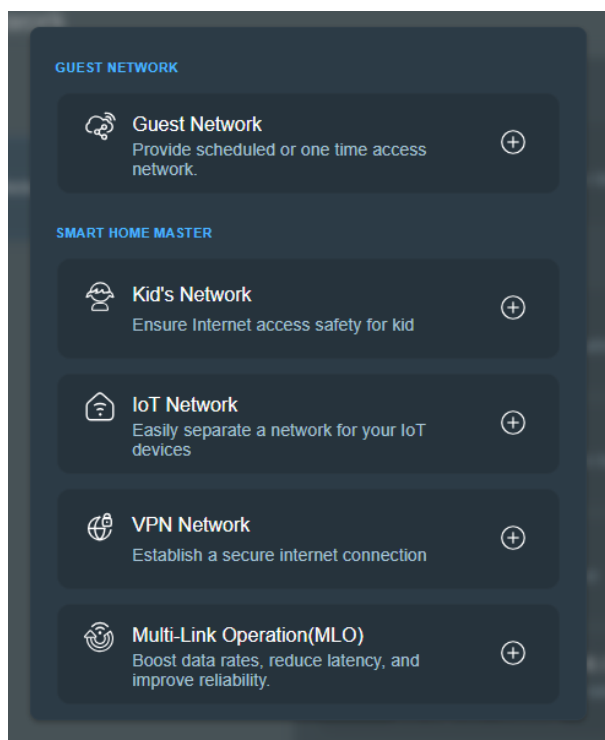
4. MACフィルターリストに接続制限を行うデバイスを追加するには、 ボタンをクリックし、次に、MACアドレスを入力し  ボタンをクリックします。
5. 「適用」をクリックし、設定を保存します。



3.9.2 ゲストネットワーク

3.9.2.1 ゲストネットワークを構築する

ゲストネットワークは、普段利用しているネットワークとは別の隔離されたネットワークをゲスト用に設定することで、安全にインターネットを共有することができます。



手順

1. 「ネットワーク」→「ゲストネットワーク」をクリックします。
2. 「ネットワーク名 (SSID)」の欄にゲストネットワーク用のネットワーク名を入力します。
3. 「セキュリティ」の欄に利用する認証方式を選択します。

4. 「**ワンタイムアクセス**」を指定するか、オンラインスケジュールプロファイルを追加する場合は「**スケジュール済み**」を選択します。
5. 新たにゲストネットワークを作成する周波数帯を選択します。
6. 「**帯域リミッター**」の有効/無効を設定します。
7. 「**イントラネットのアクセス**」の有効/無効を設定します。
8. 設定完了後は「**適用**」をクリックし、設定を保存します。

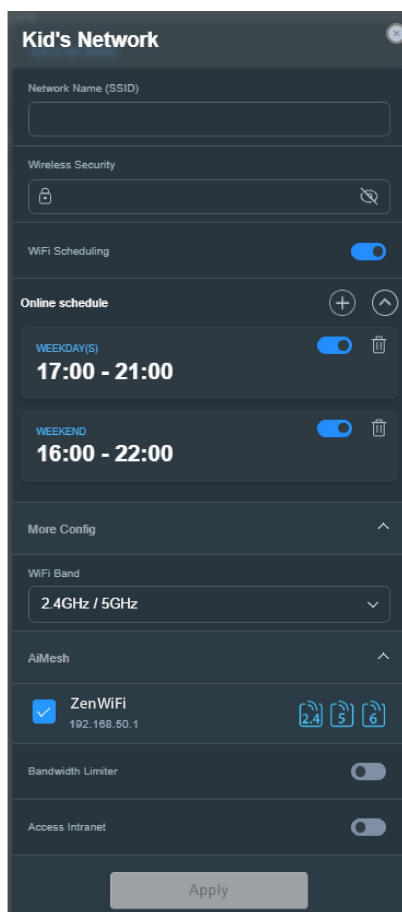
The screenshot shows the 'Guest Network' configuration page. At the top, there's a 'Network Name (SSID)' input field. Below it, the 'Security' section has two buttons: 'Open System' (highlighted in blue) and 'Password'. The 'WiFi Scheduling' section has a toggle switch turned on. Underneath, there are two radio buttons: 'Scheduled' and 'One Time Access' (selected). Below these are several buttons for duration: '30 mins', '1 hr(s)', '2 hr(s)' (highlighted in blue), '4 hr(s)', '6 hr(s)', and 'Custom'. A 'More Config' section with an upward arrow contains a 'WiFi Band' dropdown menu set to '2.4GHz / 5GHz'. Below that, the 'AiMesh' section has an upward arrow and a 'ZenWiFi' checkbox (checked) with the IP address '192.168.50.1' and three icons labeled '2.4', '5', and '6'. At the bottom, there are two toggle switches: 'Bandwidth Limiter' and 'Access Intranet', both currently turned off. A large 'Apply' button is at the very bottom.

3.9.2.2 スマートホームマスター

スマートホームマスター (Smart Home Master) は、ネットワークセグメンテーションのためのパワフルでユーザーフレンドリーなツールです。お子様のデバイス用に専用のSSIDを作成したり、専用のサブネットワークを経由してVPNに接続したり、すべてのIoT機器用に1つのセキュアなSSIDを作成するなど、高度なサブネットワークの作成と管理シナリオのプロセスを簡素化します。

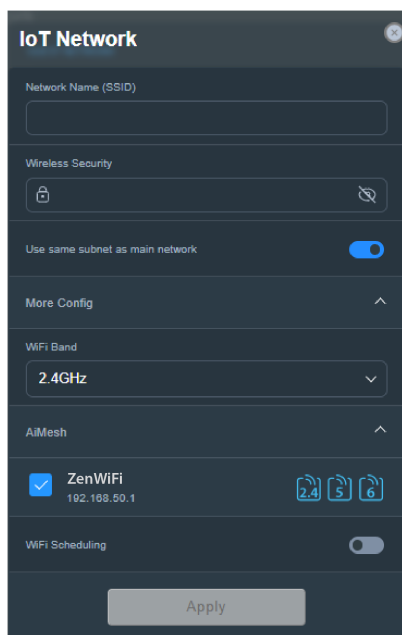
キッズネットワークを構築する

1. 「**ネットワーク**」→「**キッズネットワーク**」をクリックします。
2. 「**ネットワーク名 (SSID)**」の欄にゲストネットワーク用のネットワーク名を入力します。
3. オンラインスケジュールプロファイルでインターネットアクセス時間をカスタマイズします。
4. 新たにゲストネットワークを作成する周波数帯を選択します。
5. 「**帯域リミッター**」の有効/無効を設定します。
6. 「**イントラネットのアクセス**」の有効/無効を設定します。
7. 設定完了後は「**適用**」をクリックし、設定を保存します。



IoTネットワークを構築する

1. 「ネットワーク」→「IoTネットワーク」をクリックします。
2. 「ネットワーク名 (SSID)」の欄にゲストネットワーク用のネットワーク名を入力します。
3. 新たにゲストネットワークを作成する周波数帯を選択します。
4. WiFiスケジューリングを有効にして、インターネットアクセス時間をカスタマイズ。
5. 設定完了後は「適用」をクリックし、設定を保存します。



VPNネットワークを構築する

1. 「ネットワーク」→「VPNネットワーク」をクリックします。
2. 「ネットワーク名 (SSID)」の欄にゲストネットワーク用のネットワーク名を入力します。
3. VPNサーバー、または、VPNクライアントにVPNプロファイルを設定していない場合は、「設定する」をクリックしてVPNプロファイルを作成してください。
4. 新たにゲストネットワークを作成する周波数帯を選択します。
5. WiFiスケジューリングを有効にして、インターネットアクセス時間をカスタマイズ。
6. 「帯域リミッター」の有効/無効を設定します。
7. 「イントラネットのアクセス」の有効/無効を設定します。
8. 設定完了後は「適用」をクリックし、設定を保存します。

VPN Network

Network Name (SSID)

Wireless Security

VPN

VPN CLIENT

There is no VPN profile now. Click [Go Setting] below to VPN setting page and create.

Go Setting

VPN SERVER

WireGuard VPN

Go Setting

More Config

WiFi Band

2.4GHz / 5GHz

AI Mesh

ZenWiFi

192.168.50.1

2.4

5

6

WiFi Scheduling

Bandwidth Limiter

Access Intranet

3.10 システムログ

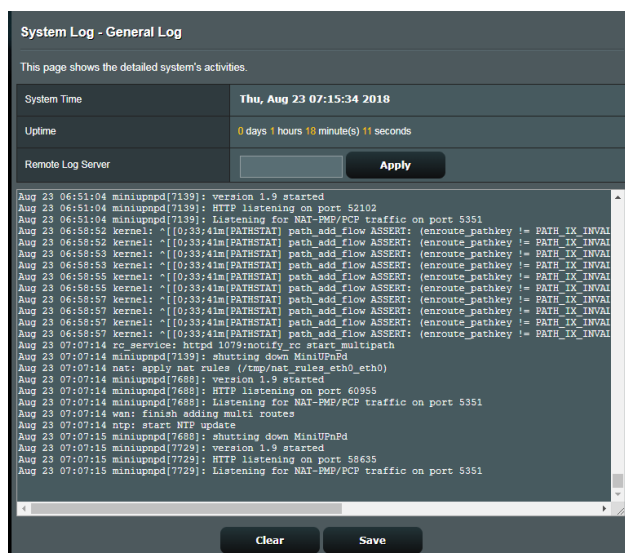
システムログでは、本製品で行われた通信に関する履歴(ログ)をカテゴリーごとに確認することができます。

注意: 本製品を再起動または電源をオフにすると、システムログは自動的に消去されます。

システムログを参照する

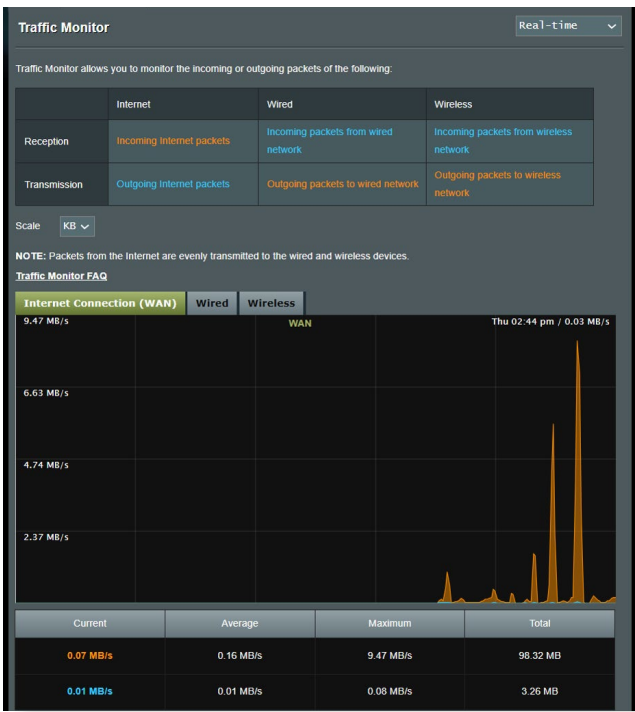
1. 「システムログ」をクリックします。
2. システムログは次のカテゴリーで分類されています。

- ・ 全般ログ
- ・ ワイヤレスログ
- ・ DHCPリース
- ・ IPv6
- ・ 経路表 (ルーティングテーブル)
- ・ ポートフォワーディング
- ・ 接続ログ



3.11 トラフィックモニター

トラフィックモニターは、LANやインターネットの各トラフィックをグラフィカルに表示する機能です。トラフィックモニターではインターネット（外部）、有線、無線の受信パケットと送信パケットをモニターすることができます。



注意: インターネットからのパケットは有線デバイスと無線デバイスに均等に送信されます。

3.12 USBアプリケーション

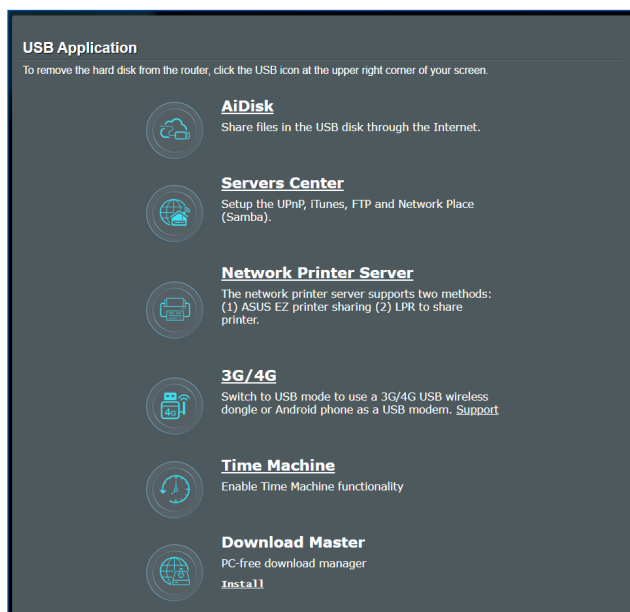
無線LANルーターに接続したUSBストレージデバイスやプリンターなどを使用するためには、各アプリケーションで設定を行う必要があります。

重要! 各種サーバー機能を使用するには、本体の外付けHDDやUSBメモリーなどの対応デバイスを接続する必要があります。本製品がサポートするUSBストレージデバイスのフォーマットタイプや容量については、次のWeb サイトでご確認ください。

<https://event.asus.com/2009/networks/disksupport/>

本製品がサポートするプリンターについては、次のWeb サイトでご確認ください。

<https://event.asus.com/2009/networks/printersupport/>

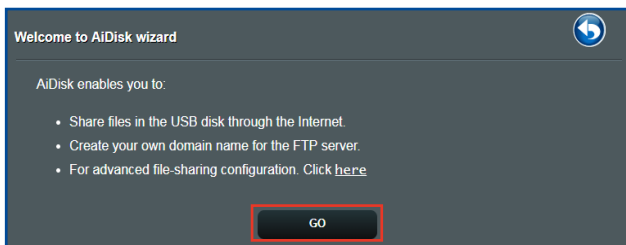


3.12.1 AiDiskを使用する

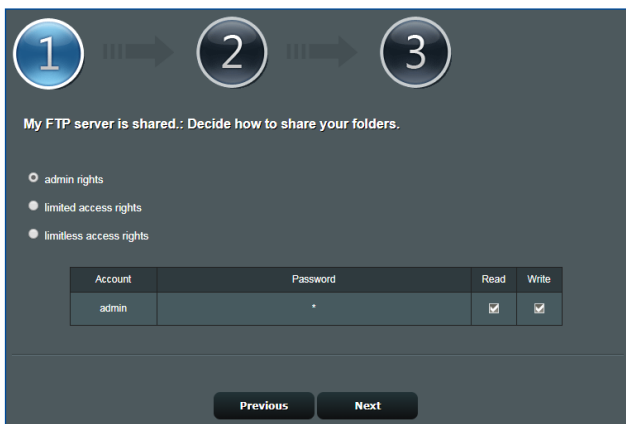
AiDisk は、無線LANルーターのUSBポートに接続したUSBストレージデバイスをクラウドストレージのように使用することができる機能です。

AiDiskを使用する

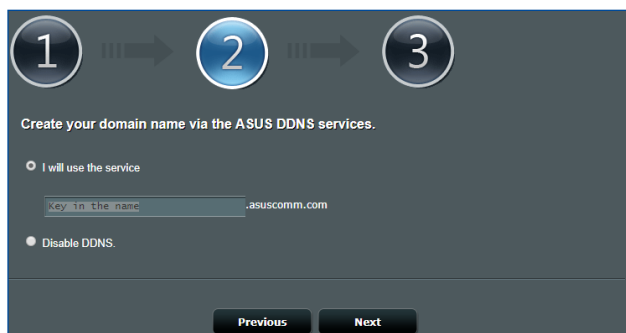
1. 「**USBアプリケーション**」→「**AiDisk**」の順にクリックします。
2. 「**設定**」をクリックし、AiDisk ウィザードを開始します。



3. ストレージの共有方法を選択します。



4. 外部ネットワークからのアクセスを可能にする場合は、asuscomm.comのドメインを作成します。



1 2 3

Create your domain name via the ASUS DDNS services.

☒ I will use the service

.asuscomm.com

☐ Disable DDNS.

Previous Next

5. 「次へ」をクリックし設定を完了します。
6. AiDiskにアクセスするには、WebブラウザまたはFTPクライアントに次のアドレスを入力します。
ftp://<LAN IP アドレス>
ftp://<ドメイン名>asuscomm.com (DDNSが有効の場合)

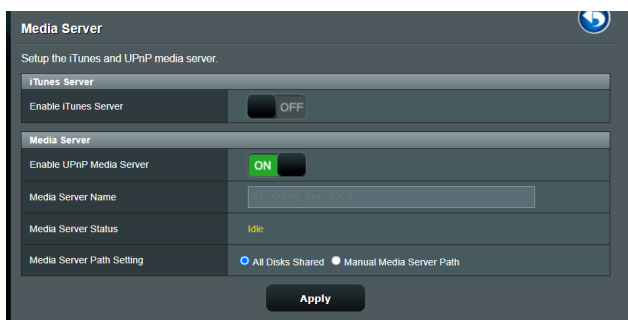
3.12.2 サーバーセンターを使用する

サーバーセンターでは、メディアサーバー、Sambaネットワーク共有、FTP共有によってUSBストレージデバイスに保存されたメディアファイルを共有することができます。

メディアサーバーを使用する

本製品では、UPnP対応デバイスからUSBストレージデバイスのメディアファイルにアクセスすることができます。

注意: UPnPメディアサーバー機能を使用する前に、DLNA対応デバイスを本機のネットワークに接続してください。

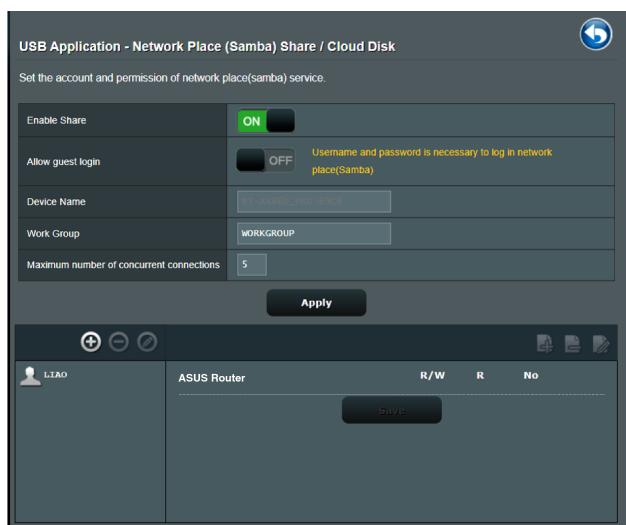


「USBアプリケーション」→「サーバーセンター」の順にクリックします。各項目については、次の説明をご覧ください。

- ・ **iTunesサーバーを有効にする:**
iTunesサーバー機能の有効/無効を設定
- ・ **UPnPメディアサーバー:**
UPnPメディアサーバー機能の有効/無効を設定
- ・ **メディアサーバーの状態:**
現在のメディアサーバーの状態を表示
- ・ **メディアサーバーパス設定:**
メディアサーバー用ディレクトリパスの設定

ネットワークプレース (Samba) 共有サービスを使用する

ネットワークプレース (Samba) を利用するためのアカウントとアクセス権限を設定することができます。



手順

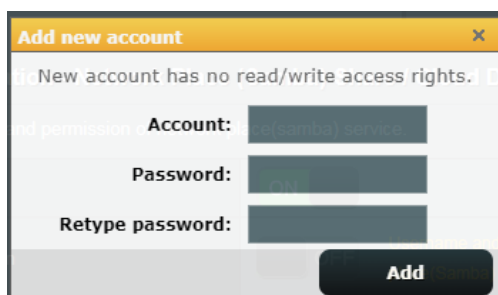
1. 「**USBアプリケーション**」→「**サーバーセンター**」の順にクリックします。

注意: ネットワークプレース (Samba) はデフォルトで有効に設定されています。

2. 「**Samba共有/ Cloud Disk**」タブをクリックし、次の手順でアカウントの管理を行います。

新しいアカウントを作成する

- a)  をクリックし、新しいアカウントを追加します。
- b) 「**アカウント**」「**パスワード**」「**パスワードの再入力**」を入力し、「**追加**」をクリックしアカウントを作成します。

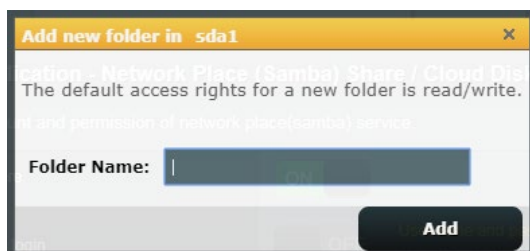


アカウントを削除する

- アカウント一覧から削除したいアカウントを選択します。
-  をクリックします。
- アカウント削除の確認メッセージが表示されます。「**削除**」をクリックし、アカウントを削除します。

ストレージのルートディレクトリにフォルダーを追加する

- USBストレージデバイスをクリックし、次に  をクリックします。
- 新しいフォルダー名を入力し、「**追加**」をクリックします。作成されたフォルダーがフォルダーリストに追加されます。



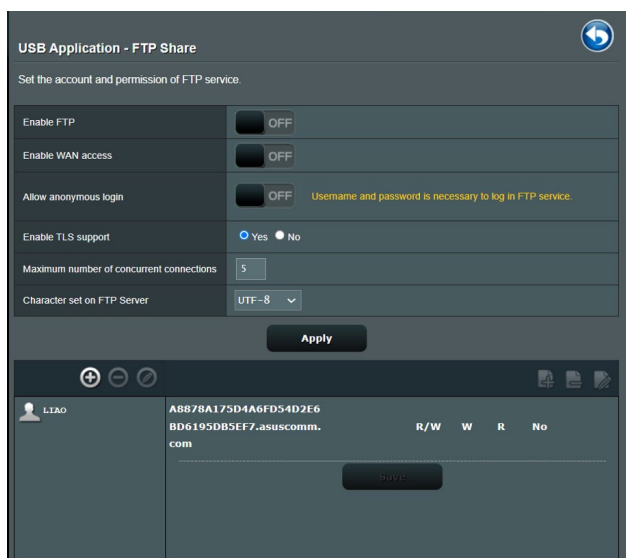
3. フォルダーリストから、フォルダーに割り当てるアクセス権限を選択します。ゲストアクセスがONの場合、この設定は不要です。
 - **R/W:** 読み取りアクセス許可 / 書き込みアクセス許可。
 - **R:** 読み取りアクセスのみ許可。
 - **No:** アクセスを許可しない (共有しない)。
4. 「**権限を保存**」をクリックし、変更を適用します。

FTP共有サービスを使用する

本製品はFTPサーバーとして使うことができ、接続されたUSBストレージデバイスを共有することができます。

重要!

- USBストレージデバイスを取り外す際は、必ず安全な取り外しを行ってから取り外してください。適切な取り外し操作を行わずにデバイスを切断すると、デバイス上のデータが破損する可能性があります。
- USBディスクを安全に取り外す方法は、「**3.1.3 USBデバイスの管理**」の「**USBディスクを安全に取り外す**」をご覧ください。



FTP共有サービスを使用する

注意: 本機能を使用する前に、AiDisk機能を設定しFTPサーバーを利用可能な状態にしてください。詳しくは「**3.12.1 AiDiskを使用する**」をご覧ください。

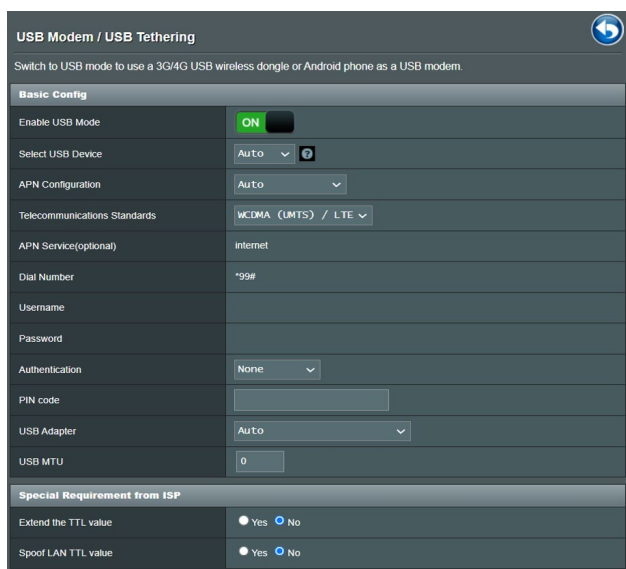
1. 「**USBアプリケーション**」→「**サーバーセンター**」の順にクリックし、「**FTP共有**」タブを選択します。
2. 各項目を設定します。
 - ・ **匿名アクセスを許可する**
FTPリソースへの匿名アクセスの許可
 - ・ **最大同時接続数**
FTPサービスへの同時接続上限
 - ・ **文字コード**
FTPで使用する文字コード
3. フォルダーリストから、フォルダーに割り当てるアクセス権限を選択します。
 - ・ **R/W:** 読み取りアクセス許可 / 書き込みアクセス許可。
 - ・ **W:** 書き込みアクセスのみ許可。
 - ・ **R:** 読み取りアクセスのみ許可。
 - ・ **No:** アクセスを許可しない (共有しない)。
4. 「**権限の保存**」をクリックし、変更を適用します。
5. FTPにアクセスするには、WebブラウザまたはFTPクライアントに次のアドレスを入力します。
ftp://<LAN IP アドレス>
ftp://<ドメイン名>asuscomm.com (DDNSが有効の場合)

3.12.3 3G/4G

本製品のUSBポートに3G/4G USBモデムを接続することで、モバイルネットワークを使用してインターネットアクセスをすることができます。

注意: 本製品がサポートする3G/4Gモデムについては、次のWeb サイトでご確認ください。

<http://event.asus.com/2009/networks/3gsupport/>



USB Modem / USB Tethering

Switch to USB mode to use a 3G/4G USB wireless dongle or Android phone as a USB modem.

Basic Config

Enable USB Mode	ON
Select USB Device	Auto
APN Configuration	Auto
Telecommunications Standards	WCDMA (UMTS) / LTE
APN Service(optional)	Internet
Dial Number	*99#
Username	
Password	
Authentication	None
PIN code	
USB Adapter	Auto
USB MTU	0

Special Requirement from ISP

Extend the TTL value	☐ Yes ☒ No
Spoof LAN TTL value	☐ Yes ☒ No

3G/4Gインターネットアクセスをセットアップする

1. 「**USBアプリケーション**」→「**3G/4G**」の順にクリックします。
2. 「**USBモード**」を「**ON**」にします。
3. 各項目を設定します。
 - ・ **場所**: 回線事業者 (プロバイダー) の地域 (国) をドロップダウンリストから選択します。
 - ・ **ISP / USBモデム**: 回線事業者、またはマニュアルの場合は回線方式を選択します。
 - ・ **APNサービス (オプション)**: 回線事業者が指定する接続先をご使用ください。
 - ・ **ダイヤル番号、PINコード**: 詳細についてはご契約の回線事業者にお問い合わせください。
 - ・ **ユーザー名 / パスワード**: 詳細についてはご契約の回線事業者にお問い合わせください。
 - ・ **USBアダプター**: USBポートに接続されている3G/4G USBモデムのタイプを選択します。3G/4G USBモデムのタイプが不明、またはリストに存在しない場合は「**自動**」を選択します。
4. 「**適用**」をクリックし、設定を保存します。

注意: 設定を適用するためには、無線LANルーターの再起動が必要です。

重要!

- ・ 3G/4G インターネットアクセスの設定に必要な情報については、ご契約の回線事業者にご確認ください。
 - ・ ISPを選択した際に自動入力される値は最新でない可能性があります。設定を適用する前に、必ずご契約の回線事業者が指定する設定であることをご確認ください。
 - ・ ご契約の回線事業者によっては、3G/4G USBモデムによるネットワーク接続を使用した場合に別途通信料が発生する場合があります。本機能を利用するために必要となる通信機器、動作環境の整備及び通信料等は、ユーザーの責任で準備・負担するものとし、当社は一切責任を負いません。
-

3.13 WAN

3.13.1 インターネット接続

インターネット接続では、WAN接続に関する各種設定をすることができます。

WAN - Internet Connection

ASUS Router supports several connection types to WAN (wide area network). These types are selected from the dropdown menu beside WAN Connection Type. The setting fields differ depending on the connection type you selected.

Configure the Ethernet WAN settings of ASUS Router.

Basic Config

WAN Connection Type	Automatic IP
Enable WAN	☒ Yes ☐ No
Enable NAT	☒ Yes ☐ No
Enable UPnP	☒ Yes ☐ No
Enable WAN Aggregation	☐ Yes ☒ No WAN Aggregation combines two network connections to increase your WAN speed up to 2Gbps. Connect your router's WAN port and LAN 4 port to your modem's LAN ports (ensure you use two cables with the same specification). WAN Aggregation FAQ

WAN DNS Setting

DNS Server	Default status : Get the DNS IP from your ISP automatically Assign a DNS service to improve security, block advertisement and gain faster performance. Assign	
Forward local domain queries to upstream DNS	☐ Yes ☒ No	
Enable DNS Robind protection	☐ Yes ☒ No	
Enable DNSSEC support	☐ Yes ☒ No	
Prevent client auto DoH	Auto	
DNS Privacy Protocol	None	

DHCP Option

Class Identifier (Option 60)	
Client Identifier (Option 61)	☒ IAID/DUID
Class Identifier (Option 60)	
Client Identifier (Option 61)	☒ IAID/DUID

Account Settings

Authentication	None
PPP Echo Interval	6
PPP Echo Max Failures	10

Special Requirement from ISP

Host Name	
MAC Address	MAC Clone
DHCP query frequency	Aggressive Mode
Extend the TTL value	☐ Yes ☒ No
Spoof LAN TTL value	☐ Yes ☒ No

Apply

WAN接続のセットアップ

1. 「**WAN**」をクリックし、「**インターネット接続**」タブを選択します。
 2. プロバイダーやネットワーク管理者の指示に従って接続設定を行います。設定完了後は「**適用**」をクリックし、設定を保存します。
- **WAN接続タイプ:** ISP (インターネットサービスプロバイダー) への接続方法を選択します。ご契約プロバイダーの接続タイプについては、ご契約時の書類またはご契約のプロバイダーへお問い合わせください。
 - **WAN を有効にする:** WAN (Wide Area Network) 接続の有効/無効を設定します。「**いいえ**」に設定した場合、WAN によるインターネット接続は無効になります。
 - **NAT を有効にする:** NAT (Network Address Translation) は、プライベートIPアドレスを、インターネットで使えるようグローバルIPアドレスに変換する機能です。これにより、1つのグローバルIPアドレス環境でプライベートIPアドレスを割り当てられた複数のコンピューターが、同時にインターネットへアクセスできるようになります。「**いいえ**」に設定した場合、インターネットは1台のみで利用可能です。
 - **UPnPを有効にする:** UPnP (Universal Plug and Play) 機能の有効/無効を設定します。UPnPは、コンピューターやその周辺機器をはじめとして、AV機器、電話、家電製品、情報機器などのあらゆる機器をネットワーク経由で相互接続するための技術です。この機能を有効にすることで、UPnPによるデバイス検出、LAN内機器からのポートマッピング要求、LAN内機器へのWAN側IPアドレス通知、ポートフォワーディングの動的設定などを行なうことができます。
 - **DNS サーバー:** DNSサーバーアドレスを設定します。「**アサイン**」を選択し、DNSリストからDNSサービスを設定することができます。

- **認証:** IEEE 802.1x (MD5) による認証を使用する際に設定します。この設定はプロバイダーから指定された場合にのみ設定します。認証方法やユーザー名、パスワードなどについては、ご契約時の書類またはご契約のプロバイダーへお問い合わせください。
- **ホスト名:** ご契約のプロバイダーによっては、このホスト名の設定が必要な場合があります。ホスト名については、ご契約時の書類またはご契約のプロバイダーへお問い合わせください。
- **MACアドレス:** MAC (Media Access Control) アドレスは、ネットワーク上で各ノードを識別するために、LANカードやネットワークデバイスに割り当てられている物理アドレスです。プロバイダーによっては、登録されたMACアドレスのデバイスでのみ通信を許可するなどの監視を行っている場合があります。未登録MACアドレスによる接続問題が発生した場合、次の手段で問題を回避することができます。
 - ご契約のプロバイダーへ新しいMACアドレスを通知し登録を更新する。
 - 「**MACクローン**」機能を使用し、ご契約のプロバイダーに登録されているMACアドレスを無線LANルーターのMACアドレスとしてクローン設定する。

3.13.2 デュアル WAN

「デュアル WAN」を設定することで、2 つの ISP 接続 (プライマリ WAN とセカンダリ WAN) ができます。

「デュアル WAN」を設定する:

1. 設定メニューから、**詳細設定 > WAN**の順に進みます。
2. **デュアル WAN** フィールドへ進み、**ON (オン)** にします。
3. **プライマリーWAN** と **セカンダリーWAN** を選択します。
2.5G WAN、および、USBのオプションがあります。
4. **フェールオーバー** または **ロードバランス** を選択します。
5. **適用** をクリックします。

注意: 詳しい説明については ASUS サポートサイト FAQ (よくあるご質問) <https://www.asus.com/support/FAQ/1011719> をご参照ください。

WAN - Dual WAN

ASUS Router provides Dual WAN support. Select Failover mode to use a secondary WAN for backup network access. Select Load Balance mode to optimize bandwidth, maximize throughput, minimize response time, and prevent data overload for both WAN connection. [Dual WAN FAQ](#)

To enable WAN Aggregation go to the [WAN-Internet Connection page](#).

Basic Config

Enable Dual WAN	☒ ON
Primary WAN	WAN
Secondary WAN	USB
Dual WAN Mode	Fail Over ☐ Allow fallback

Auto Network Detection

Detailed explanations are available on the [ASUS Support Site FAQ](#), which may help you use this function effectively.

Detect Interval	Every 5 seconds
Failover Trigger Condition	When the current WAN fails 12 continuous times, failover to Secondary WAN
Network Monitoring	☐ DNS Query ☒ Ping

3.13.3 ポートトリガー

ポートトリガーは、LAN デバイスからのトリガーポートの要求に応じて外部ポートを一時的に開くことができます。

ポートトリガーは、次のような場合に使用することができます。

- 複数のクライアントが、同じアプリケーションで異なる時間にポート開放 (仮想サーバーまたはポートフォワーディング) を必要とする場合
- アプリケーションが発信ポートとは異なる特定の着信ポートを必要とする場合

WAN - Port Trigger

Port Trigger allows you to temporarily open data ports when LAN devices require unrestricted access to the Internet. There are two methods for opening incoming data ports: port forwarding and port trigger. Port forwarding opens the specified data ports all the time and devices must use static IP addresses. Port trigger only opens the incoming port when a LAN device requests access to the trigger port. Unlike port forwarding, port trigger does not require static IP addresses for LAN devices. Port forwarding allows multiple devices to share a single open port and port trigger only allows one client at a time to access the open port.

[Port Trigger FAQ](#)

Basic Config

Enable Port Trigger: ☐ Yes ☒ No

Well-Known Applications: Please select

Trigger Port List (Max Limit: 32)

Description	Trigger Port	Protocol	Incoming Port	Protocol	Delete
No data in table.					

Apply

ポートトリガーのセットアップ

1. 「WAN」をクリックし、「ポートトリガー」タブを選択します。
 2. プロバイダーやネットワーク管理者の指示に従って接続設定を行います。設定完了後は「適用」をクリックし、設定を保存します。
- **ポートトリガーを有効にする:** ポートトリガー機能の有効/無効を設定します。
 - **アプリケーション:** 一般的に使用されるアプリケーションを簡単にセットすることができます。
 - **説明:** トリガーポートリストに登録する際の識別名を入力します。

- **トリガーポート:**監視するトリガーポート (発信ポート) 範囲を指定します。
- **プロトコル:**トリガーポートの通信プロトコルを選択します。
- **着信ポート:**トリガーによって一時的に開放される着信ポートの範囲を指定します。

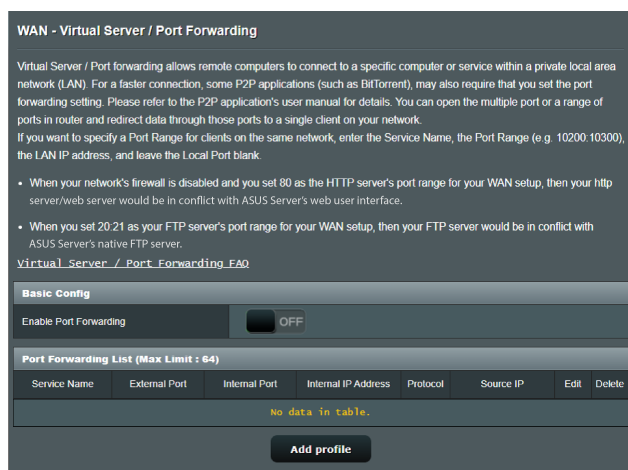
注意:

- IRCサーバーに接続する場合、クライアントはトリガーポート範囲「**66660-7000**」を使用して接続要求を行います。IRCサーバーはユーザー名を確認し、着信ポートを使用してクライアントへの新しい接続を確立することによって、要求に応答します。
 - ポートトリガー機能が無効に設定されている場合、IRCサーバーへの接続要求を行っているクライアントを特定することができないため、ルーターの接続は強制的に切断されます。ポートトリガー機能が有効に設定されている場合、ルーターはデータを受信するために着信ポートを割り当てます。ルーターはアプリケーションが終了したかどうかを判断できないため、一定時間が経過すると自動的に着信ポートを閉じようとします。
 - ポートトリガーは1度にネットワーク上の1つのクライアントのみに特定のサービスと特定の着信ポートを使用することを許可します。
 - 同じアプリケーションを使用して1度に複数のクライアントでポートトリガーを行なうことはできません。ルーターは最後に送信されたクライアントの接続要求に対してのみ応答します。
-

3.13.4 ポートフォワーディング

ポートフォワーディングは、インターネットから特定のポート番号宛にパケットが届いた場合に、あらかじめ設定しておいた LAN 側のコンピューターにパケットを転送する機能です。ポートフォワーディング機能を有効にすることで、LANの外側からLAN内部のコンピューターが提供するサービスにアクセスすることが可能になります。

注意: ポートフォワーディング機能を有効に設定した場合、本製品はインターネットからの未承認の着信トラフィックをブロックし、LANからの発信要求の応答のみを許可します。クライアントとインターネットは直接アクセスすることはできません。



ポートフォワーディングのセットアップ

1. 「WAN」をクリックし、「ポートフォワーディング」タブを選択します。
 2. プロバイダーやネットワーク管理者の指示に従って接続設定を行います。設定完了後は「適用」をクリックし、設定を保存します。
- **ポートトリガーを有効にする:** 仮想サーバー機能の有効/無効を設定します。
 - **サーバーリスト:** 一般的に使用されるサーバーを簡単にセットすることができます。

- ・ **ゲームリスト:** 一般的にプレイされるゲームを簡単にセットすることができます。
- ・ **サービス名:** ポートフォワーディングリストに登録する際の識別名を入力します。
- ・ **FTPサーバーポート:** 無線ルーターのネイティブFTPサーバー機能の割り当てと競合するため、FTPサーバーポートにはポート番号20、21を割り当てないようご注意ください。
- ・ **外部ポート:** ポートフォワーディングによって転送されたパケットを受信するクライアントのポートを設定します。同じネットワーク上にあるクライアントのポート範囲を指定した場合は、サービス名、ポートレンジ (例 10200:10300)、ローカルIP を入力します。ローカルポートの項目は空欄にします。ポートレンジは複数の形式で指定することが可能です。例: ポート範囲 (300:500)、個別ポート (566,789)、ポート範囲と個別 (1015:1024,3021)

ご注意:

- ・ ネットワークファイアウォールを無効に設定し、WANセットアップ用にHTTPサーバーにポート80を割り当てている場合、HTTPサーバー/Webサーバー/本製品の管理画面に競合が発生し使用することができません。
 - ・ ネットワークはデータ交換を行うためにポートを使用しますが、各ポートにはポートナンバーと特定のタスクが割り当てられています。例えば、ポート80はHTTPに使用されます。特定のポートは1度に1つのアプリケーションまたはサービスのみを使用することができます。このため、2台のPCが同時に同じポートを経由してデータにアクセスすることはできません。例えば、2台のPCで同時にポート100にポートフォワーディングを設定することはできません。
-
- ・ **内部IPアドレス:** ポートフォワーディングによって転送されたパケットを受信するクライアントのIPアドレスを設定します。

注意: ポートフォワーディング機能を使用するには、クライアントに静的IPアドレスを割り当てる必要があります。詳細は、「**3.8 LAN**」をご覧ください。

- **内部ポート:** ポートフォワーディングによって転送されるパケットを特定のポートで受信させたい場合にポート番号を設定します。着信パケットを特定ポートではなくポート範囲内でリダイレクトするには、この項目を空欄にします。
- **プロトコル:** ポートフォワーディングの通信プロトコルを選択します。不明な場合は「**BOTH**」を選択することをお勧めします。

ポートフォワーディング機能が正しく設定されていることを確認する

- サーバーまたはアプリケーションが正しくセットアップされ動作していることを確認します。
- LANの外側へアクセス可能なクライアント (以下、インターネットクライアントと表記) を準備します。インターネットクライアントは、本製品のネットワークグループに接続しません。
- 本製品のWAN IPアドレスを使用してインターネットクライアントからサーバーにアクセスします。ポートフォワーディングが正常に機能している場合は、ファイルやアプリケーションにアクセスすることができます。

ポートトリガーとポートフォワーディングの違い

- ポートトリガーは静的 IPアドレスを設定せずに使用することができます。また、ポートトリガーではルーターを使用して動的な転送を可能とします。例えば、複数のクライアントが同じアプリケーションでポート開放を必要とする場合、ポートフォワーディングでは個別に設定する必要がありますが、ポートトリガーは発信ポート (トリガーポート) のアクセス要求を監視することで、ポートを開放します。
- ポートトリガーは、一定時間が経過すると自動的に着信ポートを閉じようとします。ポートフォワーディングのように指定したポートを常に開放せず、接続要求によってのみ一時的にポートを開放するので安全に使用することができます。

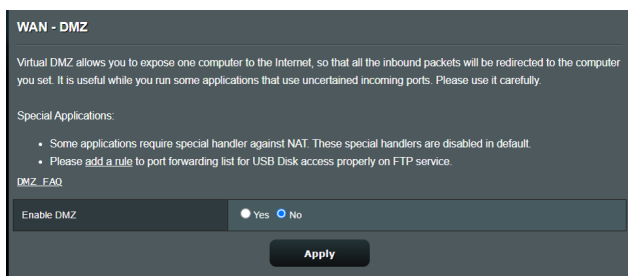
3.13.5 DMZ

DMZ (DeMilitarized Zone) とは、ネットワーク上でファイアウォールによって包囲された、外部ネットワークからも内部ネットワークからも隔離された領域のことです。外部からアクセスされるDNSサーバー、メールサーバー、Webサーバーなどのホストコンピュータを仮想DMZ領域に配置することで、既存のLANに対してセキュリティを確保することができます。

警告! DMZを設定した場合、登録したIPアドレスに対してすべてのポートを開放した状態になります。セキュリティが低下しますのでご注意ください。セキュリティには十分ご注意ください。

DMZのセットアップ

1. 「WAN」をクリックし、「DMZ」タブを選択します。
2. 「DMZを有効にする」の「はい」を選択します。
3. **公開ステーションのIPアドレス:**DMZ指定するクライアントのIPアドレスを入力します。サーバークライアントは静的IPアドレスが割り当てられている必要があります。
4. 「適用」をクリックし、設定を保存します。



DMZの削除

1. 「公開ステーションのIPアドレス」に入力したIPアドレスを削除します。
2. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.13.6 DDNS

DDNS (Dynamic Domain Name System) は、固定のIPアドレスが割り当てられていない場合でも、特定のドメイン名を利用できるサービスです。本製品では、ASUS DDNS Serviceまたはその他のDDNSサービスを介することにより外部ネットワークからのアクセスを可能にします。

WAN - DDNS

DDNS (Dynamic Domain Name System) is a service that allows network clients to connect to the wireless router, even with a dynamic public IP address, through its registered domain name. The wireless router is embedded with the ASUS DDNS service and other DDNS services.

If you cannot use ASUS DDNS services, please go to <https://iplookup.asus.com/nslookup.php> to reach your internet IP address to use this service.

The wireless router currently uses a private WAN IP address.
This router may be in the multiple-NAT environment and DDNS service cannot work in this environment.

The host name is successfully registered. You can use "[hostname].asuscomm.com" to access the service in home network from WAN. Use "[hostname].asuscomm.com" to remotely access your network.
Go to Advanced Settings > WAN to configure the port forwarding or DMZ settings to allow other WAN clients to remotely access your network.
If you want to remotely configure the wireless router, go to [here](#).

Enable the DDNS Client	☒ Yes ☐ No
Server	www_ASUS_COM ▾ Deregister
Host Name	A8B78A175D4A6F05402E6BD6195D85EF7 asuscomm.com
DDNS Status	Active
DDNS Registration Result	Registration is successful.
HTTPS/SSL Certificate	☐ Free Certificate from Let's Encrypt ☐ Import Your Own Certificate ☒ None

Apply

DDNSのセットアップ

1. 「**WAN**」をクリックし、「**DDNS**」タブを選択します。
2. ご利用環境に応じて以下の設定を行います。設定完了後は「**適用**」をクリックし、設定を保存します。
 - **DDNSクライアントを有効にする:** インターネット経由で外部から無線LAN/ルーターにアクセスを可能にするDDNS機能の有効/無効を設定します。
 - **サーバー/ホスト名:** DDNSサービスを利用するサーバーをドロップダウンリストから選択します。ASUS DDNS Service を利用する場合は、希望ホスト名 (ドメイン名) を入力します。

- ASUS DDNS Service (WWW.ASUS.COM) 以外のサーバーを利用したい場合は、まずはじめに「**無料お試し**」をクリックしオンライン登録を行ってください。
- **ワイルドカードを有効にしますか:** ご利用のDDNSサービスがワイルドカードをサポートしている場合のワイルドカードサポートの有効/無効を設定します。

注意:

DDNSサービスは次の条件下で動作しません。

- 無線LANルーターにプライベートIPアドレスが割り当てられている場合。
例: 192.168.x.x、172.16.x.x、10.x.x.x
この場合、管理画面上に黄色のテキストで警告が表示されます。
 - 複数のNATテーブルが存在するネットワーク上に無線LANルーターがある場合。
-

3.13.7 NATパススルー

NATパススルーでは、クライアントからの各VPNの接続要求に対してパケットをWAN (インターネット) 側に通過させるかどうかの設定が可能です。

PPTP、L2TP、IPsec、RTSP、H.323、SIP パススルーはデフォルトで有効に設定されています。

NATパススルーのセットアップ

1. 「WAN」をクリックし、「NAT パススルー」タブを選択します。
2. 各パススルー機能の有効/無効を設定します。設定完了後「適用」をクリックし、設定を保存します。

WAN - NAT Passthrough	
Enable NAT Passthrough to allow a Virtual Private Network (VPN) connection to pass through the router to the network clients.	
PPTP Passthrough	Enable ▾
L2TP Passthrough	Enable ▾
IPSec Passthrough	Enable ▾
RTSP Passthrough	Enable ▾
H.323 Passthrough	Enable ▾
SIP Passthrough	Enable ▾
PPPoE Relay	Disable ▾
FTP ALG port	2021
Apply	

3.14 ワイヤレス

3.14.1 全般設定

全般タブでは基本的なワイヤレス設定を行うことができます。

The image shows a 'Wireless - General' settings window. It contains three sections for different frequency bands: 2.4 GHz, 5 GHz, and 6 GHz. Each section has three rows: 'Channel bandwidth', 'Control Channel', and 'Extension Channel'. The 'Control Channel' row includes a dropdown menu and a text label. The 'Extension Channel' row has a dropdown menu. At the bottom of the window is an 'Apply' button.

Wireless - General	
Set up the wireless related information below.	
2.4 GHz	
Channel bandwidth	20/40 MHz
Control Channel	Auto Current Control Channel: 1
Extension Channel	Auto
5 GHz	
Channel bandwidth	20/40/80/160 MHz Enable 160 MHz
Control Channel	Auto Current Control Channel: 52 Auto select channel including DFS channels
Extension Channel	Auto
6 GHz	
Channel bandwidth	20/40/80/160/320 MHz
Control Channel	Auto Current Control Channel: 21 enable PSC (Preferred Scanning Channel) to ensure the 6GHz devices connectivity. Suggest to use "Auto" for better device compatibility Please check FAQ
Extension Channel	Auto
Apply	

基本的なワイヤレス設定

1. 「ワイヤレス」をクリックします。
2. ワイヤレスネットワーク用に2.4GHz、5GHz、6GHzの周波数帯を設定します。
 - ・ **チャンネル帯域:** 通信チャンネルの帯域幅を選択します。
 - ・ **チャンネル:** 通信チャンネルを選択します。[自動]を選択した場合、無線LANルーターは電波干渉の少ないチャンネルを自動的に選択して使用します。
 - ・ **拡張チャンネル:** 拡張チャンネルを選択します。[自動]を選択した場合、無線LANルーターは電波干渉の少ないチャンネルを自動的に選択して使用します。
3. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.14.2 WPS

WPS (Wi-Fi Protected Setup) は、Wi-Fi Allianceが策定したワイヤレスネットワーク接続・セキュリティの設定を簡単に行うための規格です。WPSに対応したワイヤレスデバイスをプッシュボタン方式またはPIN方式で簡単に接続することができます。

注意: WPS機能を使用する前に、ご利用のデバイスがWPSに対応していることをご確認ください。

Wireless - WPS

WPS (WiFi Protected Setup) provides easy and secure establishment of a wireless network. You can configure WPS here via the PIN code or the WPS button.

Enable WPS	☒ ON
Current Frequency	2.4 GHz
Connection Status	Idle
Configured	Enabled Reset Pressing the reset button resets the network name (SSID) and WPA encryption key.
AP PIN Code	51246044

You can easily connect a WPS client to the network in either of these two ways:

- Method1: Click the WPS button on this interface (or press the physical WPS button on the router), then press the WPS button on the client's WLAN adapter and wait for about three minutes to make the connection.
- Method2: Start the client WPS process and get the client PIN code. Enter the client's PIN code on the Client PIN code field and click Start. Please check the user manual of your wireless client to see if it supports the WPS function. If your wireless client does not support the WPS function, you have to configure the wireless client manually and set the same network Name (SSID), and security settings as this router.

WPS Method: ☐ Push button ☒ Client PIN Code

[Start](#)

WPSを有効にする

1. 「ワイヤレス」をクリックし、「WPS」タブを選択します。
2. 「WPSを有効にする」のスイッチをクリックして、WPS機能をONにします。
3. WPSで接続設定を行う周波数帯はデフォルト設定で「2.4GHz」に設定されています。周波数帯を変更する場合は、WPS機能を一旦OFFにし「現在の周波数」ドロップダウンリストから、使用する周波数帯を選択します。

注意: WPS機能は次の認証方式でのみ利用することができます。
Open System, WPA/WPA2-Personal。また、SSID非表示設定が有効の場合、WPS機能は使用できません。WPSはShared Key、WPA-Enterprise、WPA2-Enterprise、WPA3-Enterprise、及び RADIUS 認証をサポートしていません。

4. 「**WPS方式**」で接続方法を選択します。プッシュボタン方式で接続する場合は**手順5**へ、PINコード方式で接続する場合は**手順6**へ進みます。
5. プッシュボタン接続方式を使用して接続する場合は、次の手順に従って操作します。
 - a. コンピューターの場合は、WPSで接続設定を行う周波数帯のネットワーク名 (SSID) を選択し、ネットワークキーの入力画面にします。その他のデバイスの場合は、デバイス上のWPSボタンを押し、接続待機状態にします。
 - b. 管理画面でWPS方式の「**WPSボタン**」をチェックし「**開始**」ボタンをクリックするか、または本体背面のWPSボタンを押します。

注意: WPSボタンの位置については、ご使用のデバイスの取扱説明書をご覧ください。

- c. しばらくすると、ネットワークに接続され通知領域(タスクトレイ)のワイヤレスネットワークアイコンが接続状態となります。接続デバイスが検出されない場合、WPSは自動的にアイドル状態に切り替わります。
6. PINコード接続方式を使用して接続する場合は、次の手順に従って操作します。

ワイヤレスデバイスからの接続設定:

- a. 無線LANルーターのPINコードを確認します。PINコードは管理画面上の「**AP PIN コード**」に表記されています。
- b. ワイヤレスデバイスにPINコードを入力しWPS機能を有効にします。接続設定中は電源LEDが3回点滅します。

無線LANルーターからの接続設定:

- a. ワイヤレスデバイスのPINコードを確認します。PINコードは、デバイス上または取扱説明書などをご確認ください。
- b. 「**クライアント PIN コード**」をチェックし、にワイヤレスデバイスのPINコードを入力して「**開始**」ボタンをクリックします。
- c. ワイヤレスデバイスのWPS機能を有効にしWPS接続を開始します。接続設定中は電源LEDが3回点滅します。

3.14.3 ブリッジ

ブリッジとは、別々のネットワークを1つのネットワークとして結合することです。本製品は、物理的に離れたネットワークをワイヤレス接続で結合するWDS (Wireless Distribution System) をサポートしています。WDSは「**ワイヤレスブリッジ**」、「**リピーター機能**」、「**アクセスポイント間通信**」とも呼ばれており、通信範囲を広げたり、電波の届きづらい場所への中継を可能にします。

Wireless - Bridge

Bridge (or named WDS - Wireless Distribution System) function allows your ASUS Router to connect to an access point wirelessly. WDS may also be considered a repeater mode.

Note:

The function only support [Open System/NONE, Open System/WEP] security authentication method. To set up the corresponding authentication method, please select Legacy as your wireless mode first. [Click Here to modify.](#) Please refer to this [FAQ](#) for more details.

To enable WDS to extend the wireless signal, please follow these steps:

1. Select [WDS Only] or [Hybrid] mode and add MAC address of APs in Remote AP List.
2. Ensure that this wireless router and the AP you want to connect to use the same channel.
3. Key in the remote AP mac in the remote AP list and open the remote AP's WDS management interface, key in the this router's MAC address.
4. To get the best performance, please go to Advanced Settings > Wireless > General and assign the same channel bandwidth, control channel, and extension channel to every router in the network.

You are currently using the Auto channel bandwidth. [Click here to modify.](#)

You are currently using the Auto channel. [Click here to modify.](#)

Basic Config

2.4 GHz MAC	CB:7F:54:12:69:C8
5 GHz MAC	CB:7F:54:12:69:CC
Band	2.4 GHz
AP Mode	AP Only
Connect to APs in list	☒ Yes ☐ No

Remote AP List (Max Limit : 4)

Remote AP List	Add / Delete
No data in table.	

Apply

ワイヤレスブリッジのセットアップ

1. 「ワイヤレス」をクリックし、「WDS」タブを選択します。
2. 「バンド」ドロップダウンリストでワイヤレスブリッジで使用する周波数帯を選択します。

3. 「**APモード**」ドロップダウンリストから動作モードを選択します。
- **AP Only:** ワイヤレスブリッジ機能を使用しません。
 - **WDS Only:** ワイヤレスブリッジとしてのみ動作します。アクセスポイントとして動作しないため、ワイヤレスデバイスを接続することはできません。
 - **Hybrid:** ワイヤレスブリッジとして動作し、またアクセスポイントとしても動作します。

注意: 「**Hybrid**」モードに設定した場合、本製品のアクセスポイントの通信速度は通常の半分の速度となります。

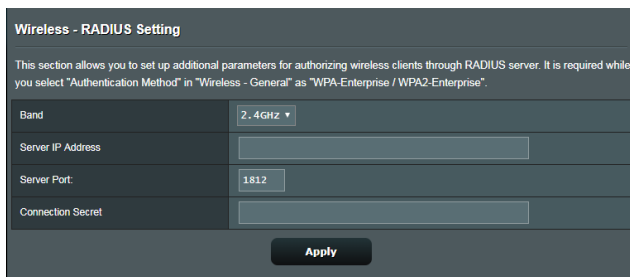
4. リモートブリッジリストに登録したアクセスポイントに接続する場合は、「**リスト内のAPIに接続しますか**」の「**はい**」をチェックします。
5. リモートブリッジリストに新たなアクセスポイントを追加するには、プルダウンリストから選択するか、MACアドレスを入力し  ボタンをクリックします。

注意: リモートブリッジリストに追加されたアクセスポイントを使用するには、無線LANルーターとアクセスポイントが同じチャンネル上にある必要があります。

6. 「**適用**」をクリックし、設定を保存します。
7. ワイヤレスブリッジ用のチャンネルを「**自動**」にすると、ルーターは自動的に干渉が最も少ないチャンネルを選択します。チャンネルは「**ワイヤレス**」の「**全般**」タブ内で変更することができます。スマートコネクト機能が有効の場合、手動でチャンネル設定をすることはできません。

3.14.4 RADIUSの設定

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service) の設定では、RADIUS認証サーバーへの接続設定をすることができます。この設定は、ワイヤレスネットワークの認証方式をWPA/WPA2 Enterprise、またはRadius IEEE 802.1x に設定した場合に必要となります。



The image shows a 'Wireless - RADIUS Setting' dialog box. It contains a text area at the top explaining the purpose of the settings. Below this are four input fields: 'Band' (a dropdown menu showing '2.4GHz'), 'Server IP Address' (a text box), 'Server Port' (a text box showing '1812'), and 'Connection Secret' (a text box). At the bottom right is an 'Apply' button.

Wireless - RADIUS Setting	
This section allows you to set up additional parameters for authorizing wireless clients through RADIUS server. It is required while you select "Authentication Method" in "Wireless - General" as "WPA-Enterprise / WPA2-Enterprise".	
Band	2.4GHz ▼
Server IP Address	
Server Port	1812
Connection Secret	
Apply	

RADIUS認証サーバーアクセスのセットアップ

1. ワイヤレス全般設定で認証方式をWPA/WPA2/WPA3 Enterprise、またはRadius IEEE 802.1x に設定したネットワークを構築します。

注意: 認証方式については、「3.14.1 全般設定」をご覧ください。

2. 「ワイヤレス」をクリックし、「RADIUS」タブを選択します。
3. 「バンド」ドロップダウンリストで設定する周波数帯を選択します。
4. 「サーバーIPアドレス」に、RADIUS認証サーバーのIPアドレスを入力します。
5. 「接続シークレット」に、RADIUS認証サーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。
6. 「適用」をクリックし、設定を保存します。

3.14.5 ワイヤレス - 詳細

「詳細」ではワイヤレスネットワークに関するより詳細な設定をすることができます。

注意: 特に必要がなければ、設定を変更せずに使用することをお勧めします。

Wireless - Professional	
Wireless Professional Setting allows you to set up additional parameters for wireless. But default values are recommended.	
Band	2.4 GHz
Enable Radio	☒ Yes ☐ No
Enable wireless scheduler	☒ Yes ☐ No
Set AP Isolated	☒ Yes ☐ No
Roaming assistant	Enable Disconnect clients with RSSI lower than: -70 dBm
Bluetooth Coexistence	Disable
Enable IGMP Snooping	Enable
Multicast Rate(Mbps)	Auto
Preamble Type	Long
AMPDU RTS	Enable
RTS Threshold	2347
DTIM Interval	1
Beacon Interval	100
Enable TX Bursting	Enable
Enable WMM	Enable
Enable WMM No-Acknowledgement	Disable
Enable WMM APSD	Enable
Optimize AMPDU aggregation	Disable
Modulation Scheme	Up to MCS 11 (NitroQAM/1024-QAM)
Airtime Fairness	Disable
Multi-User MIMO	Enable
OFDMA802.11ax MU-MIMO	Disable
Explicit Beamforming	Enable
Universal Beamforming	Enable
Tx power adjustment	Performance
Apply	

「詳細」では、次の設定が可能です。

- ・ **バンド:** 設定をする周波数帯を選択します。

- ・ **ワイヤレス機能を有効にする:** ワイヤレスネットワークの有効/無効を設定します。
- ・ **無線スケジューラを有効にする:** 時間の表示形式として、24時間表示または12時間表示を選択することができます。表の色分けは、「許可」または「拒否」を示しています。各フレームをクリックして平日の時間の設定を変更し、完了したらOKをクリックします。

Wireless - Professional

* Reminder: The System time zone is different from your locale setting.

Clock Format: 24-hour ▾ Allow ☐ Deny ☐

Active Schedule

System Time: Thu, Aug 23 06:59:27 2018

Select All	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
00 ~ 01							
01 ~ 02							
02 ~ 03							
03 ~ 04							
04 ~ 05							
05 ~ 06							
06 ~ 07							
07 ~ 08							
08 ~ 09							
09 ~ 10							
10 ~ 11							
11 ~ 12							
12 ~ 13							
13 ~ 14							
14 ~ 15							
15 ~ 16							
16 ~ 17							
17 ~ 18							
18 ~ 19							
19 ~ 20							
20 ~ 21							
21 ~ 22							
22 ~ 23							
23 ~ 24							

Cancel OK

- ・ **APを隔離しますか:** ネットワーク上の各ワイヤレスデバイスが相互通信をできないようにします。この機能は多くのゲストユーザーが頻繁にネットワークに接続する場合などのセキュリティ強化として効果を発揮します。
- ・ **マルチキャスト速度 (Mbps) :** マルチキャストフレームの伝送レートを指定します。これは、アクセスポイントがワイヤレスネットワークにブロードキャストパケット及びマルチキャストパケットを送送する速度です。

- **プリアンブルタイプ:** ワイヤレス通信の同期をとるプリアンブル信号の長さを選択します。「**Short**」では通信速度が速くなる可能性があります、通信距離や互換性は低下します。「**Long**」では通信距離と高い互換性を得ることができます。
- **RTSしきい値:** RTS (送信要求) 信号を送信するパケットサイズを設定します。しきい値を小さく設定することで、複数のデバイスを接続している場合などの通信の安定性を向上させることができます。
- **DTIM間隔:** DTIM (Delivery Traffic Indication Message) とは、省電力モードのワイヤレスデバイスに対してパケットの送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIM間隔では、ビーコンに対してDTIMを挿入する間隔を設定します。
- **ビーコン間隔:** ワイヤレスネットワークを同期させるためにアクセスポイントから送信するパケット (ビーコン) の間隔を設定します。ビーコン間隔を小さくすることでワイヤレスデバイスとの接続効率は向上しますが、通信効率は低下します。
- **Txバースト:** IEEE802.11g通信におけるバースト転送およびデータ圧縮により通信速度を向上させるTxバースト機能の有効/無効を設定します。
- **WMM APSDを有効にする:** WMM (Wi-Fi Multimedia) APSD (Automatic Power Save Delivery)、ワイヤレスデバイス間における電源管理機能の有効/無効を設定します。

4 ユーティリティ

注意:

- 無線LANルーター用ユーティリティは、次のURLからダウンロードいただけます。
 - Device Discovery v1.4.8.3: <https://dlcdnets.asus.com/pub/ASUS/LiveUpdate/Release/Wireless/Discovery.zip>
 - Firmware Restoration v2.1.0.3: <https://dlcdnets.asus.com/pub/ASUS/LiveUpdate/Release/Wireless/Rescue.zip>
 - Windows Printer Utility v1.0.5.5: <http://dlcdnets.asus.com/pub/ASUS/LiveUpdate/Release/Wireless/Printer.zip>
 - 無線LANルーター用ユーティリティはWindows® OS 環境でのみご利用いただけます。
-

4.1 Device Discovery

Device DiscoveryはASUS無線LANルーター専用のユーティリティで、コンピューターから接続可能なASUS無線LANルーターを検出し、設定を行うことができます。

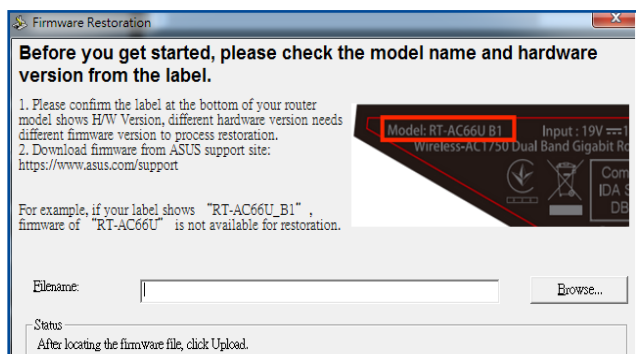
Device Discovery ユーティリティを起動する:

- 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ASUS Utility」→「Device Discovery」の順にクリックします。

注意: アクセスポイントモード、メディアブリッジモードをご使用の場合、ルーターのIPアドレスを確認するには本ユーティリティをご使用ください。

4.2 Firmware Restoration (ファームウェアの復元)

本製品は、ファームウェアの更新に失敗した際に復旧を行うためのレスキューモードを備えています。レスキューモードでは、Firmware Restorationユーティリティを使用して指定したファームウェアファイルからファームウェアを復旧することができます。



重要! Firmware Restoration ユーティリティは、本機がレスキューモードで動作している場合にのみご使用ください。

注意: 本ユーティリティは、Windows® OS 環境でのみご利用いただけます。

Firmware Restorationユーティリティを使用する

1. 無線LANルーターの電源アダプターをコンセントから取り外します。
2. 無線LANルーター背面の「リセットボタン」を押したままの状態
で、電源アダプターをコンセントに接続します。電源LEDが低速
で点滅し、レスキューモードで起動したことを確認したらリセッ
トボタンを放します。
3. コンピューターのIP アドレスを次の値に設定します。

IPアドレス: 192.168.1.x

サブネットマスク: 255.255.255.0

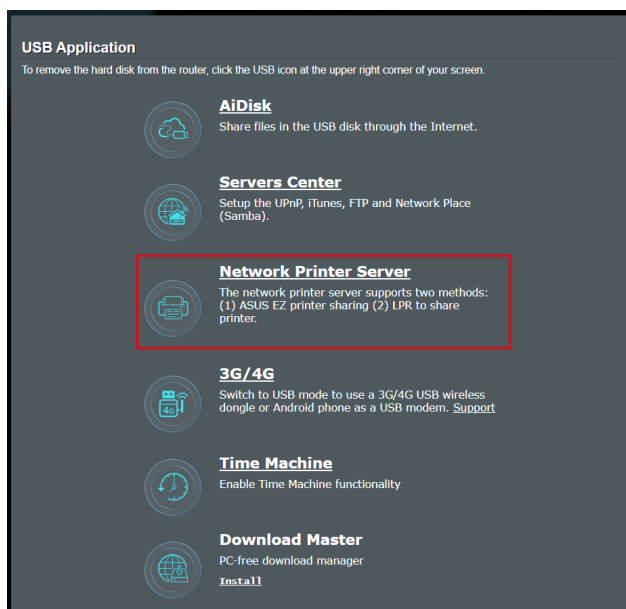
4. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ASUS Utility」
→「Wireless Router」でFirmware Restorationユーティリティ
を実行します。
5. ファームウェアファイルを指定し、「アップロード」をクリックしま
す。

注意: Firmware Restorationユーティリティはファームウェア更新用の
ユーティリティではありません。ファームウェアの更新を行う場
合は、管理画面から実行してください。詳細については本マニ
ュアルに記載の「**3.3.3 ファームウェア更新**」をご覧ください。

4.3 プリンターサーバーの設定

4.3.1 ネットワークプリンターサーバー

本製品では、専用のPrinter Setup Utilityを使用するだけで、簡単に無線LANルーターのUSBポートに接続したプリンターを共有することが可能です。



注意:

- 本製品がサポートするプリンターについては、次のWebサイトでご確認ください。
<https://event.asus.com/2009/networks/printersupport/>
 - ご利用のOS環境により使用できる機能は異なります。
-

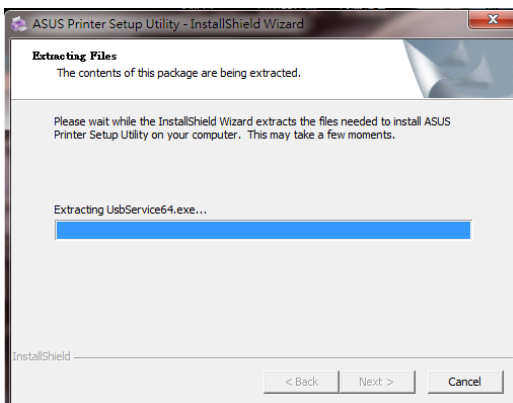
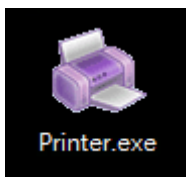
EZ Printer 共有モードのセットアップ

1. 管理画面で「**USBアプリケーション**」→「**ネットワークプリンターサーバー**」の順にクリックします。
2. 「**Download Now!**」をクリックし、Printer Setup Utility をダウンロードします。

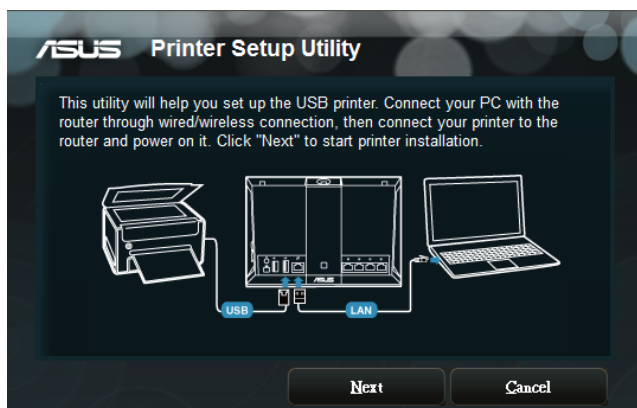


注意: LPRプロトコルでプリンターに接続する場合は、手動で設定を行う必要があります。

3. ダウンロードしたファイルを解凍し、実行ファイル「**Printer.exe**」を起動します。



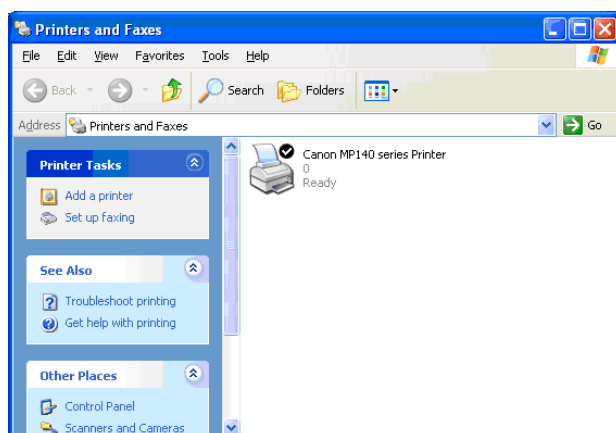
4. Printer Setup Utility によるセットアップウィザードが表示されます。画面に表示される指示に従ってセットアップを行います。



5. 初期セットアップが完了したら「次へ」をクリックします。初期セットアップには数分かかる場合があります。
6. 「終了」をクリックしセットアップを完了します。
7. Windows® OSの指示に従い、プリンタードライバーをインストールします。



8. プリンタードライバーのインストール後、ネットワークプリンターが利用可能となります。



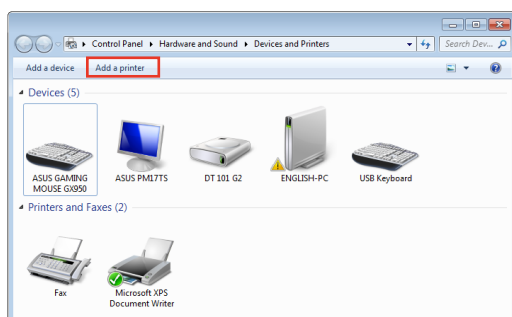
4.3.2 LPRを共有プリンターに使用する

LPR/LPD (Line Printer Remote/Line Printer Daemon) プロトコルを使用することで、ネットワーク上にあるWindows® OSやMac OSなど複数の環境でプリンターを共有することができます。

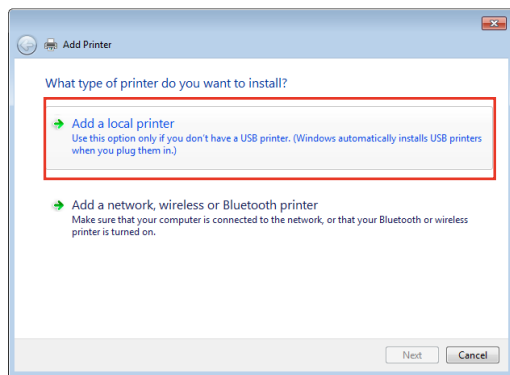
LPRプリンターを共有する (Windows® OS)

手順

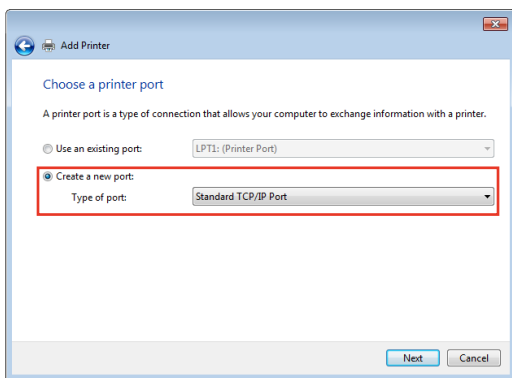
1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の順にクリックし、画面上部の「プリンターの追加」をクリックしてウィザードを起動します。



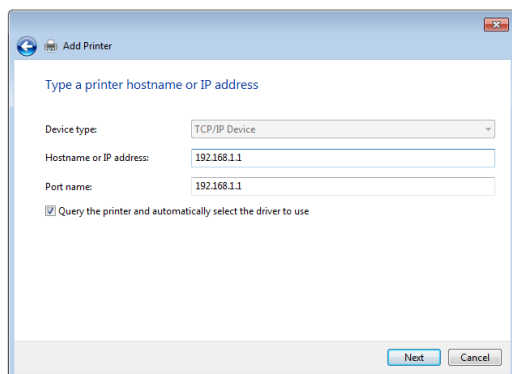
2. 「ローカルプリンターの追加します」をクリックします。



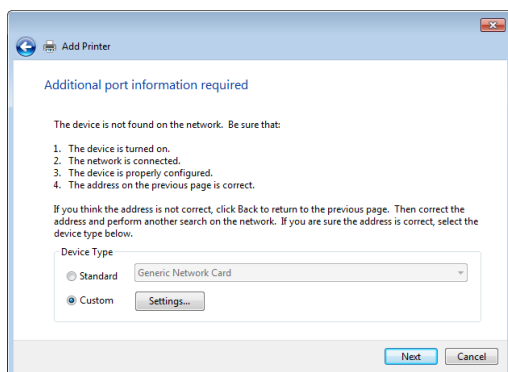
3. 「**新しいポートの作成**」をチェックし、ポートの種類を「**標準のTCP/IP ポート**」に設定し「**次へ**」をクリックします。



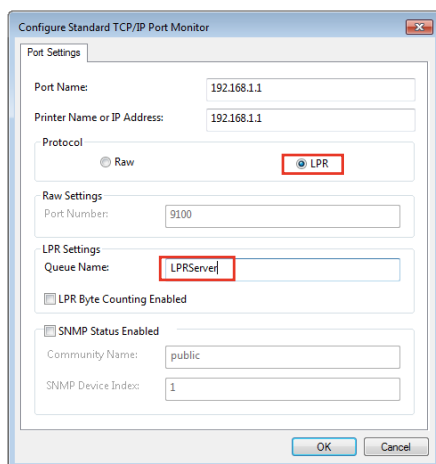
4. 「**ホスト名またはIPアドレス**」に無線LANルーターのIPアドレスを入力し「**次へ**」をクリックします。



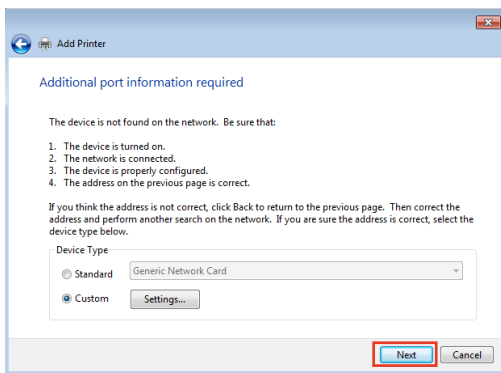
5. デバイスの種類の「**カスタム**」をチェックし、「**設定**」をクリックします。



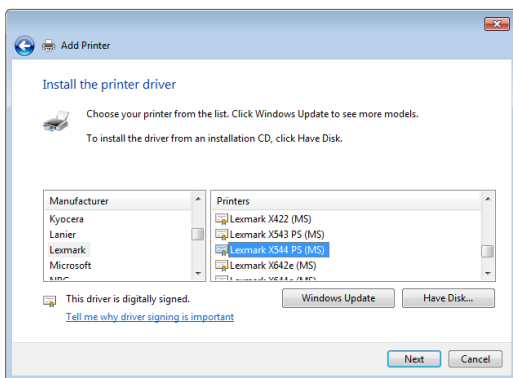
6. プロトコルを「**LPR**」に設定し、LPR設定のキュー名に「**LPRServer**」と入力し「**OK**」をクリックします。



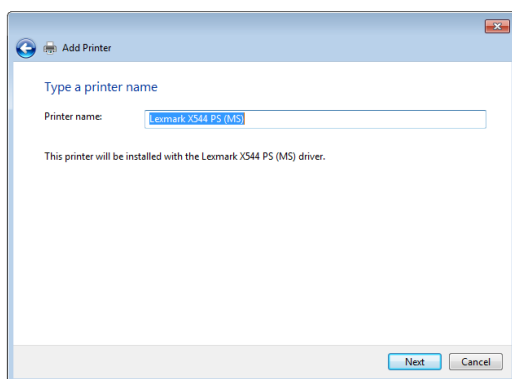
7. 「**次へ**」をクリックし、ドライバーの検出へ進みます。



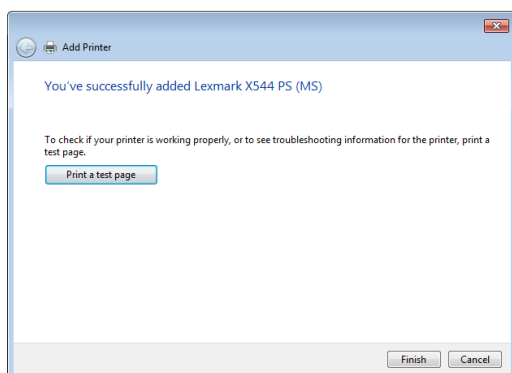
8. 製造元とプリンターを選択して「**次へ**」をクリックし、プリンタードライバーをインストールします。ご使用のプリンターが一覧に表示されない場合は、「**ディスク使用**」または「**Windows Update**」で適切なドライバーを読み込みます。



9. プリンター名を入力し、「次へ」をクリックします。



10. 「完了」をクリックして、プリンターの追加ウィザードを閉じます。



4.4 Download Master

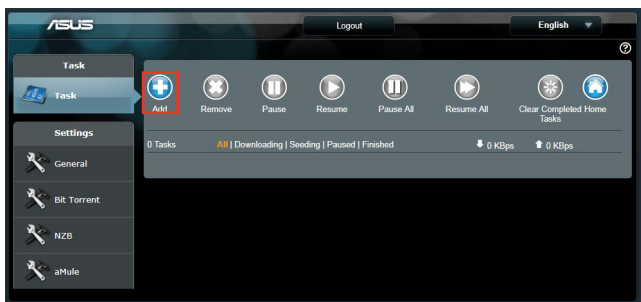
Download Masterは、コンピューターや他のデバイスの電源がオフの状態でも無線LANルーターだけでファイルのダウンロードを行うことができる画期的な機能です。

注意: この機能を使用するには、外付けHDDやUSBメモリー等のUSBストレージデバイスを経由して無線LANルーターのUSBポートに接続する必要があります。本製品がサポートするUSBストレージデバイスのフォーマットタイプや容量については、次のWeb サイトでご確認ください。

<https://event.asus.com/2009/networks/disksupport/>

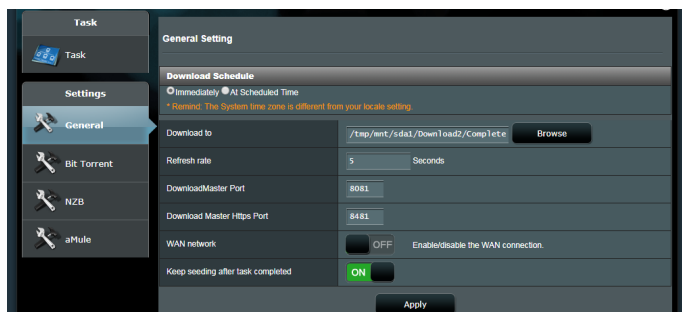
Download Master を使用する

1. 「**USBアプリケーション**」を選択し、「**Download Master**」のInstall をクリックします。接続されているUSBストレージドライブを選択するとDownload Masterユーティリティがインストールされます。
2. Download Master ユーティリティのインストール後は、USBアプリケーションの「**Download Master**」アイコンをクリックすることで起動することができます。
3. 「**追加**」ボタンをクリックしダウンロードタスクを追加します。



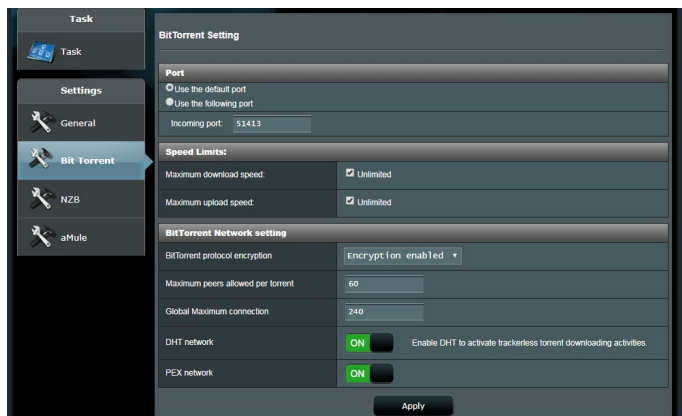
4. 「**ファイルを選択**」をクリックして、「.torrent」ファイル、または「.nzb」ファイルを選択しアップロードします。FTP、HTTP、Magnet Link からダウンロードを行う場合は、URLをコピーし下部入力欄に貼り付けます。

5. 各種設定の変更を行なうには、ナビゲーションパネルの設定から設定変更を行います。



4.4.1 BitTorrent設定

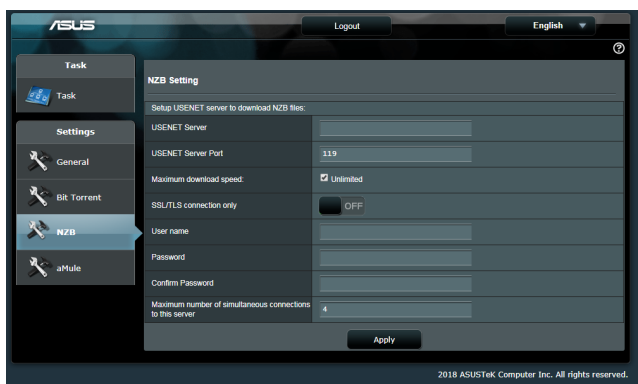
この設定では、BitTorrentを使用したダウンロードとアップロードに使用するポート、最大通信速度、ネットワーク接続設定などを変更することができます。



- **ポート:** 着信接続用ポートを指定することができます。
- **速度制限:** ネットワーク輻輳を回避するために、最大ダウンロード速度と最大アップロード速度を指定することができます。
- **ネットワーク設定:** 安全でスムーズなダウンロードを行うために、プロトコル暗号化、Torrent毎の最大ピア数、最大接続数、DHTネットワーク、PEXネットワークの設定を変更することができます。

4.4.2 NZB設定

NZBファイルを介してUsenetサーバーからファイルをダウンロードを行うには、Usenetの接続設定をする必要があります。



5 トラブルシューティング

本製品の使用中に問題が発生した場合は、まずトラブルシューティングをご覧ください。ここに記載されているトラブルシューティングを行っても問題を解決できない場合は、サポートセンターに電話またはメールでお問い合わせください。

(<https://www.asus.com/support/>)

5.1 基本的なトラブルシューティング

ルーターに関する基本的なトラブルシューティングです。

ファームウェアを最新バージョンに更新します。

1. 管理画面で「管理」をクリックし、「ファームウェア更新」タブを選択します。ファームウェアバージョンの「チェック」ボタンをクリックし、利用可能なファームウェアをチェックします。



2. または、ASUS公式サイトから最新のファームウェアをダウンロードします。

https://www.asus.com/jp/networking-iot-servers/wifi-routers/asus-wifi-routers/asus-rt-be14000/helpdesk_bios?model2Name=ASUS-RT-BE14000

3. 「**ファームウェア手動更新**」の「**アップロード**」ボタンをクリックし、コンピューターに保存したファームウェアファイルを指定します。
4. 「**開く**」をクリックし、ファームウェアの更新を開始します。

ネットワークを再起動します。

1. 本製品（ルーター）、モデム/回線終端装置、コンピューターの電源を切ります。
2. 本製品とモデム/回線終端装置からすべてのケーブルを取り外します。
3. しばらく待ち、本製品の電源アダプターをコンセントに接続します。
4. 本製品の電源を入れ、2分程度待機します。
5. 本製品とコンピューターをネットワークケーブルで接続します。
6. 本製品とモデム/回線終端装置をネットワークケーブルで接続します。
7. モデム/回線終端装置の電源アダプターをコンセントに接続します。
8. モデム/回線終端装置の電源を入れ、2分程度待機します。
9. コンピューターの電源を入れ、ネットワークの接続状態を確認します。

ネットワークケーブルが正しく接続されていることを確認します。

- 本製品とモデム/回線終端装置が正しく接続されている場合、本製品のWAN LEDが点灯します。
- 本製品とコンピューターが正しく接続されている場合、コンピューターの電源が入っている状態で本製品のLAN LEDが点灯します。

お使いのルーターのワイヤレスネットワーク接続設定が正しいことを確認します。

- コンピューターをワイヤレスネットワークで接続する場合は、ネットワーク名 (SSID)、認証方式、ネットワークキー、通信チャンネルなどが正しく設定されていることを確認します。

ルーターのネットワーク設定が正しいことを確認します。

- ネットワーク上のクライアントが通信を行なうには、各クライアントすべてに個別のIPアドレスが割り当てられている必要があります。本製品ではDHCPサーバー機能を有しており、この機能を使用することで個別のIPアドレスを自動的に割り当てることが可能です。



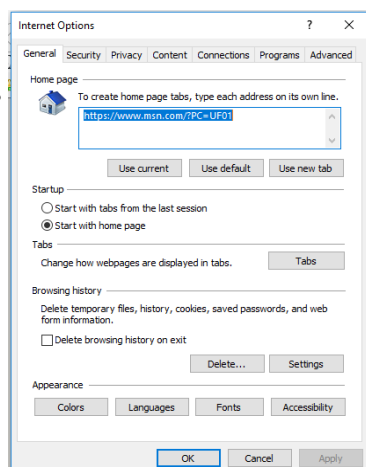
5.2 FAQ (よくある質問)

管理画面 にアクセスすることができません。

- 有線接続の場合は、コンピュータと無線LANルーターにネットワークケーブルが正常に接続され LAN LED が点灯していることを確認する。
- 管理画面にアクセスする際に使用する、管理者名 (ユーザー名) とパスワードが正しいことを確認する。大文字/小文字の入力を間違わないようご注意ください。
- Web ブラウザーの Cookie や一時ファイルを削除する。

例: Internet Explorer

1. メニューバー、またはツールから「インターネットオプション」を起動します。
2. 「全般」タブの閲覧の履歴にある「削除」ボタンをクリックし、「インターネット一時ファイル」と「Cookie」をチェックして「削除」をクリックします。



注意:

- ご利用の Web ブラウザーにより操作方法は異なります。
- プロキシサーバーの無効、ダイヤルアップ接続の無効、IP アドレス自動取得の有効を確認します。詳細については本マニュアルに記載の「**セットアップを行う前に**」をご覧ください。
- カテゴリー 5e (CAT5e) または 6 (CAT6) のネットワークケーブルをご使用ください。

無線LANルーターとコンピューターのワイヤレス接続が確立できません。

注意: 5GHz帯ネットワークに接続できない場合は、ワイヤレスデバイスが5GHzに対応していること、またはデュアルバンド対応であることをご確認ください。

- **電波の有効範囲外:**
 - 無線LANルーターとコンピューターの距離を近づける。
 - 無線チャンネルを変更する。
 - 無線LANルーターのアンテナの角度を調整する。

- DHCPサーバーを有効にする:

1. 管理画面で「ネットワークマップ」をクリックし、クライアントに該当のコンピューターが表示されていることを確認します。
2. クライアント一覧にコンピューターが表示されていない場合は、「LAN」をクリックし、「DHCPサーバー」タブで「DHCPサーバーを有効にする」の「はい」をチェックします。

LAN - DHCP Server

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) is a protocol for the automatic configuration used on IP networks. The DHCP server can assign each client an IP address and informs the client of the DNS server IP and default gateway IP. ASUS Router supports up to 253 IP addresses for your local network.
[Manually Assigned IP around the DHCP list FAQ](#)

Basic Config

Enable the DHCP Server	☒ Yes ☐ No
ASUS Router's Domain Name	
IP Pool Starting Address	192.168.50.2
IP Pool Ending Address	192.168.50.254
Lease time	86400
Default Gateway	

DNS and WINS Server Setting

DNS Server 1	
DNS Server 2	
Advertise router's IP in addition to user-specified DNS	☒ Yes ☐ No
WINS Server	

Manual Assignment

Enable Manual Assignment	☐ Yes ☒ No
--------------------------	---

Manually Assigned IP around the DHCP list (Max Limit : 64)

Client Name (MAC Address)	IP Address	DNS Server (Optional)	Host Name (Optional)	Add / Delete
00:00:00:00:00:00				+
No data in table.				

- SSIDの非表示設定を解除する:**
 管理画面で「ワイヤレス」をクリックし、「SSIDを非表示」の「いいえ」をチェックします。次に、「チャンネル」を「自動」に設定します。

Wireless - General

Set up the wireless related information below.

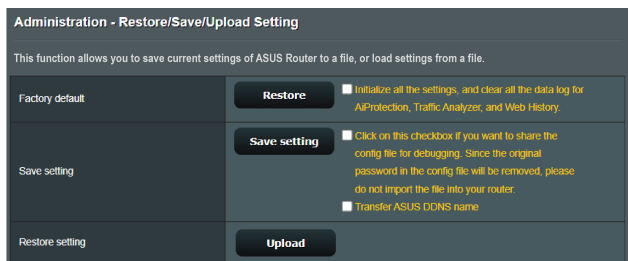
Enable Smart Connect	☐ OFF
Band	2.4 GHz
Network Name (SSID)	LIAO
Hide SSID	☒ Yes ☐ No
Wireless Mode	Auto ☒ big Protection ☐ Disable 11b
802.11ax / WiFi 6 mode	Enable If compatibility issue occurs when enabling 802.11ax / WiFi 6 mode, please check FAQ
WiFi Agile Multiband	Disable
Target Wake Time	Disable
Channel bandwidth	20/40 MHz
Control Channel	Auto Current Control Channel: 5
Extension Channel	Auto
Authentication Method	WPA2-Personal
WPA Encryption	AES
WPA Pre-Shared Key	***** Weak
Group Key Rotation Interval	3600

Apply

- 通信チャンネルを確認する:**
 ワイヤレスLANアダプターをお使いの場合、現在設定しているチャンネルがご使用の地域で利用可能であることを確認します。許可されていない通信チャンネルに設定されている場合、ネットワークを構築することができません。

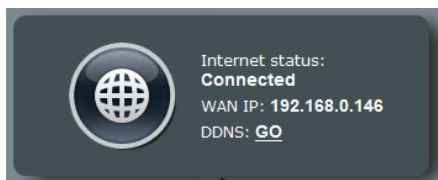
- ・ システムを工場出荷時の状態に戻す:

無線LANルーターの設定を工場出荷時の状態に戻し、再度ネットワークの設定を行います。システムを工場出荷時の状態に戻すには、管理画面で「管理」をクリックし、「復元/保存/アップロード設定」タブを選択します。「工場出荷時の状態にリセット」の「リストア」をクリックします。



インターネットに接続できません。

- ・ ルーターがプロバイダーに接続可能であることを確認する:
管理画面で「ネットワークマップ」をクリックしインターネットの接続状態が「接続済み」と表示され、「WAN IP」が割り当てられていることを確認します。

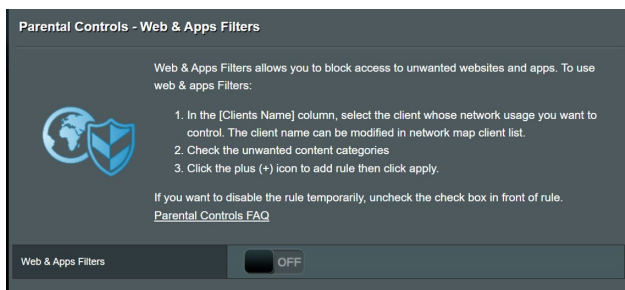


- ・ ネットワークを再起動する:

ルーターがWAN IPを取得していない場合は、「5.1 基本的なトラブルシューティング」の「ネットワークを再起動する」を参考にネットワークの再起動を実施します。

- ・ ペアレンタルコントロールが設定されている:

ご使用のコンピューターがペアレンタルコントロールによる利用制限に登録されている場合、ペアレンタルコントロールで指定されている時間インターネットを使用することはできません。設定状況は、管理画面の「ペアレンタルコントロール」で確認することができます。



- ・ **コンピューターを再起動する:**

コンピューターを一旦再起動し、「IPアドレス」と「デフォルトゲートウェイ」が正常な値であることを確認します。

- ・ **本機とモデム/回線終端装置を確認する:**

本機およびモデム/回線終端装置のLEDインジケーターが正常に点灯・点滅していることを確認します。本機のWAN LEDが消灯している場合、ネットワークケーブルが正しく接続されていないか、または破損しています。

ネットワーク名またはネットワークキーを忘れました。

- ・ **ネットワーク名とネットワークキーを再設定する:**

管理画面の「**ネットワークマップ**」、または「**ワイヤレス**」をクリックし、ネットワーク名 (SSID) とネットワークキーを再度設定します。

- ・ **システムを工場出荷時の状態に戻す:**

無線LANルーターの設定を工場出荷時の状態に戻し、再度ネットワークの設定を行います。システムを工場出荷時の状態に戻すには、管理画面で「**管理**」をクリックし、「**リセット/保存/復元**」タブを選択し、「**リストア**」をクリックします。また、本体にあるリセットボタンを5秒以上押すと、電源ランプが点滅し、工場出荷時の状態に戻ります。

システムを工場出荷時の状態に戻す方法を教えてください。

- 管理画面からシステムを工場出荷時の状態に戻す:

管理画面で「管理」をクリックし、「リセット/保存/復元」タブを選択し、「リストア」をクリックします。また、本体にあるリセットボタンを5秒以上押すと、電源ランプが点滅し、工場出荷時の状態に戻ります。

ファームウェアを更新できません。

- レスキューモードでファームウェアを修復する:

Fireware Restorationユーティリティを使用して指定したファームウェアファイルからファームウェアを復旧します。

詳細については、「**4.2 Firmware Restoration (ファームウェアの復元)**」をご覧ください。

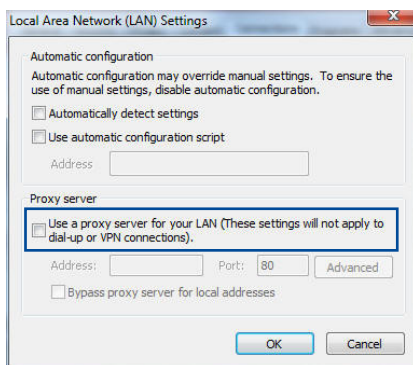
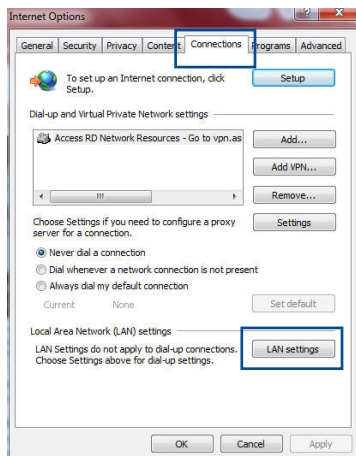
管理画面にアクセスできません。

本製品のセットアップを行う前に、お使いのコンピューターが次の環境であることをご確認ください。

A. プロキシサーバー設定を無効にする

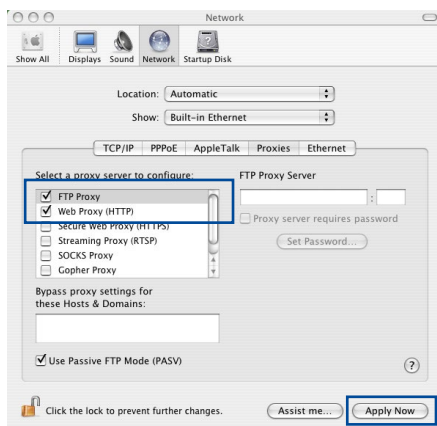
Windows®

1. Internet Explorerを開くには、「スタート」ボタンをクリックし、検索ボックスに「Internet Explorer」と入力して、結果の一覧の「Internet Explorer」をクリックします。
2. 「ツール」ボタン→「インターネットオプション」→「接続」タブ→「LANの設定」の順にクリックします。
3. 「LANにプロキシサーバーを使用する」チェックボックスをオフにします。
4. 変更が終了したら、「OK」をクリックして Internet Explorerに戻ります。



MAC OS

1. Safari を起動し、「**Safari**」→「**環境設定**」→「**詳細**」タブ→プロキシ項目「**設定を変更**」の順にクリックします。
2. 「**設定するプロキシサーバーを選択**」で「**FTP プロキシ**」と「**Web プロキシ**」のチェックボックスをオフにします。
3. 変更が終了したら、「**今すぐ適用**」をクリックして設定を適用します。



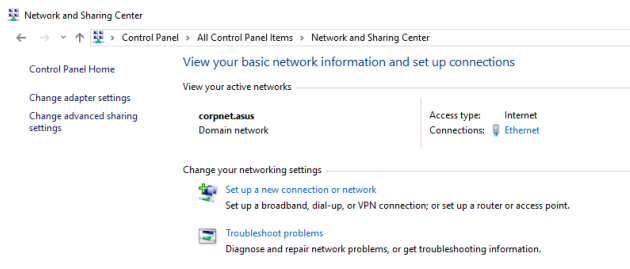
注意: 設定方法についてはブラウザのヘルプも併せてご覧ください。

B. IP アドレスの自動取得を設定する

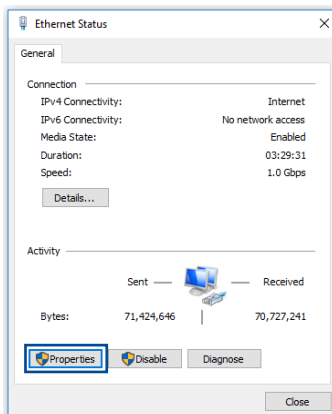
Windows®

1. ネットワーク接続を開くには、「**スタート**」ボタン→「**コントロールパネル**」の順にクリックします。ネットワークと共有センターの「**ネットワーク接続の表示**」をクリックします。

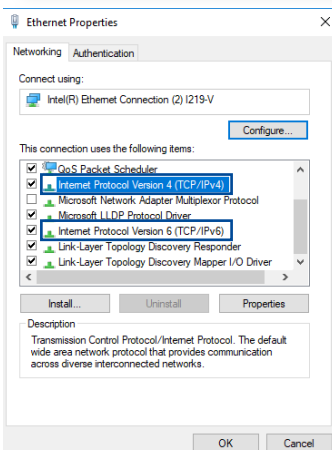
次に、network connection (ネットワーク接続) をクリックして、ステータスウィンドウを表示します。



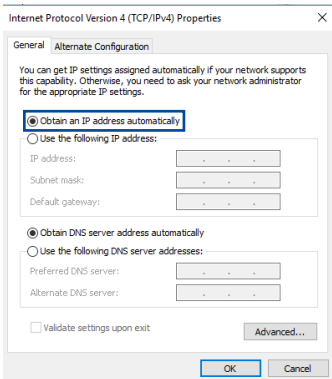
2. **Properties (プロパティ)** をクリックして、Ethernet Properties (イーサネットのプロパティ) 画面を表示します。



3. 「**ネットワーク**」タブをクリックします。「この接続は次の項目を使用します」で「**インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)**」または「**インターネットプロトコルバージョン 6 (TCP/IPv6)**」のどちらかをクリックし、「**プロパティ**」をクリックします。

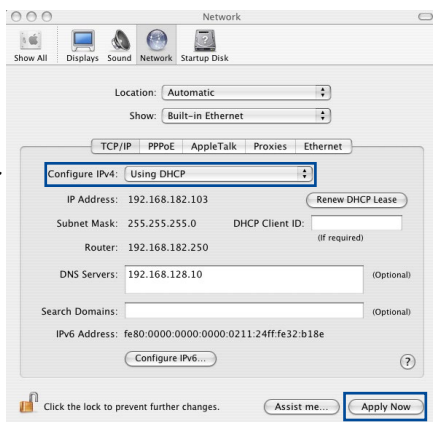


4. DHCP を使用してIP 設定を自動的に取得するには、「**IPアドレスを自動的に取得する**」をクリックします。
5. 変更が終了したら、「**OK**」をクリックして設定を適用します。



MAC OS

1. をクリックし、アップルメニューを開きます。
2. 「システム環境設定」を選択し、インターネットとネットワークの「ネットワーク」をクリックします。
3. 現在使用しているネットワークを選択し、「設定」をクリックします。
4. 「TCP/IP」タブをクリックし、「IPv4 の設定」ドロップダウンリストで「DHCPサーバを参照」を選択します。
5. 変更が終了したら、「今すぐ適用」をクリックして設定を適用します。

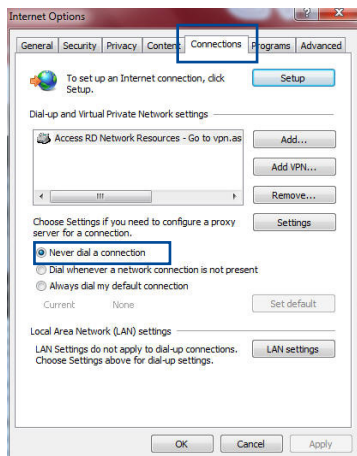


注意: TCP/IP の設定に関しては、オペレーティングシステムのヘルプファイルも併せてご覧ください。

C. ダイヤルアップ接続を無効する

Windows®

1. Internet Explorerを開くには、「スタート」ボタンをクリックし、検索ボックスに「Internet Explorer」と入力して、結果の一覧の「Internet Explorer」をクリックします。
2. 「ツール」ボタン→「インターネットオプション」→「接続」タブの順にクリックします。
3. 「ダイヤルしない」をクリックします。
4. 変更が終了したら、「OK」をクリックして Internet Explorer に戻ります。



注意: 動ダイヤルアップ接続の設定方法についてはブラウザのヘルプも併せてご覧ください。

付録

GNU General Public License

Licensing information

This product includes copyrighted third-party software licensed under the terms of the GNU General Public License. Please see The GNU General Public License for the exact terms and conditions of this license. All future firmware updates will also be accompanied with their respective source code. Please visit our web site for updated information. Note that we do not offer direct support for the distribution.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

Terms & conditions for copying, distribution, & modification

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The “Program”, below, refers to any such program or work, and a “work based on the Program” means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.) Each licensee is addressed as “you”.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program’s source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
 - a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
 - b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
 - c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License.

Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission.

For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11 BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12 IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

安全に関する注意事項

本製品を使用する際は、以下を含むがこれらに限定されない基本的な安全上の注意事項に従ってください。



警告:

- 電源コードは、適切なアースが提供されているソケットコンセントに差し込む必要があります。装置は、近くにある簡単にアクセスできるコンセントにのみ接続してください。
- 電源アダプターが壊れている場合は、自分で修理しないでください。有資格のサービス技術者または販売店にお問い合わせください。
- 損傷した電源コード、アクセサリ、その他の周辺機器は使用しないでください。
- 本装置を2メートルより高く設置しないでください。
- この製品は、周囲温度が0℃ (32°F) ~ 40℃ (104°F) の環境で使用してください。
- 製品を使用する前に、取扱説明書と温度範囲をお読みください。
- 空港、病院、ガソリンスタンド、および専門のガレージでこのデバイスを使用する場合は、個人の安全に特に注意してください。
- 医療機器の干渉: 干渉のリスクを低減するために、埋め込み型医療機器とASUS製品の間に最低15 cm (6インチ) の距離を維持してください。
- 放射線レベルを最小限に抑えるために、ASUS製品を良好な受信状態で使用してください。
- デバイスを妊婦や10代の子供の下腹部から離してご使用ください。
- 目に見える欠陥や損傷が見られる場合、または濡れたり、改造がされている場合は、本製品を使用しないでください。



警告:

- 平らでない、または不安定な作業面には置かないでください。
 - 製品の上に物を置いたり、落としたりしないでください。製品を押しつぶしたり、曲げたり、穴を開けたり、破砕したりするなどの機械的衝撃にさらさないでください。
 - 製品の分解や改造を行わないでください。法律で罰せられることがあります。
 - 製品を電子レンジに入れる、製品を塗装する、製品を焼却する、製品に異物を挿入するといった事は行わないでください。
 - 製品の底面にある定格ラベルを参照し、電源アダプターがこの定格に準拠していることを確認します。
 - 製品を火災や熱源から遠ざけてください。
 - 液体、雨、湿気にさらさないでください。雷雨中は本製品を使用しないでください。
 - 感電の危険を防ぐため、システムを移動する前に電源ケーブルをコンセントから外してください。
 - このモデルで利用できるアクセサリは、デバイスメーカーによって承認されているもののみを使用してください。他の種類のアクセサリを使用すると、保証が無効になるか、地域の規制や法律に違反する可能性があり、安全上のリスクが生じる可能性があります。認定アクセサリの入手方法については、最寄りの販売店にお問い合わせください。
 - 本書に記載されている手順ではなく、推奨されていない方法で本製品を使用すると、火災や人身事故の原因となることがあります。
-

サービスとサポート

ASUSでは、製品に関する最新のサポート情報をサポートサイトで公開しております。お問い合わせの前に、まずは「サポートサイト」をご覧ください。

<https://www.asus.com/jp/support>



この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

屋外での使用について

本製品は、5GHz、及び6GHz帯域での通信に対応しています。電波法の定めにより5.2GHz、5.3GHz、及び6GHz帯域の電波は屋外で使用が禁じられています。

法律および規制遵守

本製品は電波法及びこれに基づく命令の定めるところに従い使用してください。日本国外では、その国の法律または規制により、本製品を使用ができないことがあります。このような国では、本製品を運用した結果、罰せられることがあります。当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。